

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにして学力の向上を図るか、その理念や方法等を「かけがわ学力向上ものがたり」として平成26年3月に策定しました。

新学習指導要領の実施を控え、これまで意識してきた「学びのユニバーサルデザインを重視した授業」、「授業の再構築」、「主体的・対話的で深い学びの授業設計」の3つの取組を継続し、子どもたちの確かな学力の向上を目指します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤とした共通理解と共通実践をとおして、全教職員が組織的な協働を図っていきます。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

令和2年6月
掛川市教育委員会

目 次

	頁
【小学校】	
1 日坂小学校	2
2 東山口小学校	4
3 西山口小学校	6
4 上内田小学校	8
5 城北小学校	10
6 第一小学校	12
7 第二小学校	14
8 中央小学校	16
9 曾我小学校	18
10 桜木小学校	20
11 和田岡小学校	22
12 原谷小学校	24
13 原田小学校	26
14 西郷小学校	28
15 倉真小学校	30
16 土方小学校	32
17 佐東小学校	34
18 中小学校	36
19 大坂小学校	38
20 千浜小学校	40
21 横須賀小学校	42
22 大淵小学校	44
【中学校】	
23 栄川中学校	48
24 東中学校	50
25 西中学校	52
26 桜が丘中学校	54
27 原野谷中学校	56
28 北中学校	58
29 城東中学校	60
30 大浜中学校	62
31 大須賀中学校	64

小学校

掛川市立日坂小学校

令和2年度 我が校のものがたり

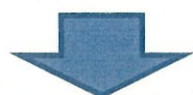
子どもの実態

令和元年度の研修に対する成果と課題

- 単元を見通した課題を設定したことで、子どもたちの主体的に取り組む姿が見られた。
- 交流前に自分の考えをもつ場面を意図的に設けたことで、互いの考えを比べ合うことができるようになってきた。

▲付きたい力をより明確にしていく必要がある。

▲子どもたちは活発に交流することができているものの、ただ自分の意見や考えを言うだけに留まり、伝え合って考えを深めたり、広げたりする段階までいっていない。



研修テーマ

進んでかかわり 学び合う子の育成



研修の取組

子どもの実態をふまえ、昨年度同様、単元を見通して子どもが主体的に考えたいくなるような課題作りを引き続き研修していく。今年度はそれに加え、付きたい力をより明確にし、付きたい力が身に付いたかという見取りも大切にしていきたい。また、子どもたちの学びが深まり、自らの学びを実感するために、振り返りのもち方についても研修を進めていく。(かけがわ型スキル：①思考力)

子どもたちが、交流を通して、「自分の考えと〇〇さんの考えのここが似ていた。」「やり方は違うけど、考え方は同じと言える。」「〇〇さんの考えを聞いて、自分の悩んでいた部分が解決できた。」など、自他の考えを関連付けたり統合させたりして、変容していく姿を期待したい。(かけがわ型スキル：③意思決定力④コミュニケーション力)

さらに、「毎時間の課題への振り返り」「毎時間の学び方への振り返り」「単元の課題への振り返り」など、状況や場面に応じて振り返りの方法を考えることも一つの研修になっていくのではないかと考えられる。





特色ある学力向上への取組

①単元を見通した学習課題の設定

- ・単元を見通して付きたい力にせまる学習課題を設定し、単元計画を構想していく。
- ・子どもの疑問やつまずきから課題を設定する。
- ・目標、学習課題、まとめまで一貫した授業を構成する。

②考えを比べたり、つなげたりする交流の設定

- ・自分の考えをもつための一人学びの時間を確保する。
- ・目的をもった交流を位置付ける。
- ・伝え方シート『伝わるって楽しいな!』の活用

③自らの学びを実感する振り返りの設定

- ・授業や単元構想の中に振り返りの時間を位置付ける。
- ・課題に対しての振り返り、学び方への振り返り等、状況や場面に応じた振り返りを設定する。
- ・個の考えの変容を見取る。

「伝わるって楽しいな!」

項目	内容
1	自分の考えを伝える
2	相手の考えを聴く
3	相手の考えを自分の考えとつなげる
4	相手の考えを自分の考えと比べる
5	相手の考えを自分の考えとつなげる
6	相手の考えを自分の考えとつなげる
7	相手の考えを自分の考えとつなげる
8	相手の考えを自分の考えとつなげる



表現する力を高める 各種発表会

- ・音読発表会
- ・かがやき発表会
- ・音読週間
- ・百人一首大会



外国語活動の充実

- 新掛川スタンダード
- ・資料の活用 (Can-Do リスト)
 - ・ふりかえりを行い、児童の様子を見取る。
- ALT との連携
- ・毎週 ALT と打ち合わせを行い、役割を確認する。

e ライブラリ 家庭学習

- 「使い方ガイド」
「児童IDカード」
を全児童に配付し、家庭学習の充実を図っている。



目指す姿

①自分の思いや考えをもち、わかりやすく表現する姿

②考えを比べながら聴き、学びを深める姿

掛川市立東山口小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

<成果>

- ・本時や単元のゴールを見直し、ゴールを意識した課題提示や発問を教師が工夫したことで、既習事項との共通性に気づき、「前に勉強した〇〇と同じ」と、統合して考えられる子どもが増えてきている。
- ・学び合いの目的や意味を子どもたちに伝えたり、具体物、図、式などの思考ツールを身に付けるようにしたりするなど、学び合いの充実のための手立てを打ったことで、子どもたちが自然な交流ができるようになり、話し合いの質が少しずつではあるが高まってきている。

<課題>

- ・個と集団の実態をつかみ、教材や教具を吟味して、子どもの思考を幾通りも予想しながら、授業をコーディネートしていく力が不十分である。
- ・子どものもつ素朴な概念を顕在化し、課題へと高められるような教師の授業コーディネート力を磨いていく必要がある。



研修テーマ

教科の見方・考え方を働かせて学び合う授業づくり



研修の取組

「算数」を窓口教科として、全職員で取り組む。研究の柱を2本立て、それを実現するための手立てを考えた。

(1) 教科の本質を捉え、子どもが概念的知識を身につける授業づくり

- 手立て
- ① 学びを貫くキーとなる概念を明確にする。
 - ② 本単元につながる既習単元や見方・考え方をおさえる。
 - ③ 子どもの具体的な姿（言葉）でゴールイメージをもつ。
 - ④ ゴールに向かうために、子どもが思わず見方・考え方を働かせたくなるような学習課題を設定する。
 - ⑤ 「授業設定シート」を活用する。

(2) 考えを深めたり広げたりする、学び合いのある授業づくり

- 手立て
- ① 実態把握のためのレディネスをとる。
 - ② ゴールに向かう子どもの思考を読み取る。
 - ③ 筋道を立てて自分の考えが説明できるように、表現の仕方を身につけさせる。
 - ④ 目的や意図をもった人との対話を取り入れる。





特色ある学力向上への取組

授業づくり

- ・単元におけるキーとなる概念を明確にし、授業作りに取り組んでいく。内容ベースから資質能力ベースのゴールイメージへと転換し、一時間（単元）の授業をゴールから見直すようにしている。そうすることで、子どもたちが概念としての知識を身に付けられるようにしている。
- ・他の学年のよいところを取り入れ、自分たちの授業をよりよいものに高めていけるよう、学期に1回、1つ上の学年の授業を見る機会を設定する。

外国語教育

- ・新かけがわスタンダードで示された Can-Do リストで、単元の目標を確認して授業を行う。
- ・子どもたちにとって魅力的な必要感のある Goal Activity を設定する。
- ・デジタル教材を活用して、言語材料の意味を子どもたちに推測させながらインプットを図るようにする。

読書指導

多くの本に親しみ進んで読書を通して、文章を読むことに慣れたり語彙を増やしたりすること、また、文章表現を豊かにしたり資料を効果的に使う力をつけたりすることへとつなげる。

（手立て）

- ・1日のスタートは読書とし、全学年で取り組む。週1日図書館で読書をする日を設定する。学校司書の協力のもと、並行読書に取り組んでいる。
- ・月2回程度、ボランティアによる読み聞かせやペア読み聞かせ、年2回の親子読書を設定する。

家庭学習の充実

家庭学習を通して、主体的に学ぶ態度や確かな学力をつける。また、家庭学習の仕方を保護者と共通理解し、子どもの学力を支える。

（手立て）

- ・栄川学園共通の「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の習慣づくりを行っている。
- ・eライブラリの活用を進めたり、3年生以上は家庭学習で自主学習ノートに取り組みせたりしている。委員会主体で、ノート展に取り組み、よりよく自主学習の進め方を学んでいく機会を作る。

目指す姿



- (1) 課題に主体的に取り組み、分かりやすく表現する姿。(自分で考える)
- (2) 考えを比べながら聴き、仲間と協力して解決する姿。(みんながわかる)
- (3) 学びを統合、発展する姿。(みんなで深める)



掛川市立西山口小学校



令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度から研修テーマを「考えをつなぐ授業」とし、子どもたちが対話を通して追究していく過程に焦点を当てた。「やってみたい」と思う学習問題と、効果的な教師の手立てや出番を意識した授業研究を行った。対話で学び合う楽しさや充実感は味わえたものの、個の学びの高まりや力の定着の検証には至らなかった。そこで、本年度も研修テーマを継続し、視点を「問いをもつ」「考えを深める」「学びを実感する」の3つの場面とした。子ども同士をつなぐための教師の構想や手立て、関わりについて研修を進めていく。「子どもがどう変容したか、どう学んだか」、『個』に焦点をあてる。そして、思考の変化や深まりがあったかを検討していくことで、子どもたちが「自分ごと」として学ぶ姿に迫っていきたい。

研修テーマ

「考えをつなぐ授業」

研修の取組

学びを実感する

- ・自分の言葉でまとめる時間の保障
- ・学びを活用する練習問題

問いをもつ

- ・自分ごととして考えることができる学習問題
- ・具体的な子どもの姿をイメージ

つなぐ

かけがわ型スキル①②③④

聴く 訊く

話す

考えを深める

- ・教師の出番、切り返しの検討
- ・活動形態の工夫(ペア・小グループ)
- ・提示する資料の精選、活動を支援するワークシート
- ・ICT の活用

学びを支える学級づくり

- ・目指す授業像の設定
- ・授業を見合う週間

特色ある学力向上への取組

外国語活動

西山口小の3goodを大切にしています

- ① Good Smile (えがお)
- ② Good Voice (大きな声)
- ③ Good Reaction (身ぶり・手ぶり)

「ふりかえりカード」を使用し、3つの項目ができたかどうか確認をし、子どもたちが意識して取り組めるようにしています。

Story time の導入

絵本を購入し、読み聞かせを推進しています。

外国語教材を学年の単元ごとに揃えています。ALT・学年間の打ち合わせを大切にしています。



情報教育

- ・各教科、道徳、特別活動等において、ICT 機器(タブレット)を活用した授業を行います。
- ・調べ学習の「テーマを決める→広く調べる→深く調べる→まとめる」の過程で、コンピュータを活用していきます。
- ・コンピュータスキル学年別指導表を活用し、ICT 機器を正しく使ったり、情報モラルについて考えたりする授業を行います。

読書指導

読書活動の充実

- ・朝活動での読書
- ・年間 100 冊を目標に、読書の記録をカードに記入
- ・毎月家庭での親子読書

図書ボランティアの協力

- ・朝活動での読み聞かせ
- ・全校読み聞かせ
- ・本の受け入れ、装備
- ・掲示や図書の整理

家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え「家読」「親子読書」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、子どもたちの

学習・生活面の基礎基本の力を支えています。また全校児童にeライブラリーのパスワードを配布しました。「今日の一問」や「先生からの連絡」などを利用し学校と家庭をつなぐツールとして活用しています。



目指す姿

聴く・訊く

「それってどういうこと？」
「ここまででは分かるんだけど。」「そういうことか。」「分かった!!」

個変容

つなぐ

思考・学び

話す

「こうやってみただけど。」「こうい
ことだよ。」「ここが似ているね。」「そ
れってつまり。」



「自分ごと」として学ぶ、自分語訳できる



掛川市立上内田小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 指示されたことや与えられた課題に対して真面目に一生懸命取り組むことができる。
- 問題に対し、「やってみたい!」「なぜ?」という思いをもち、自ら学ぼうとする姿が見られた。

△自分の考えをもっていても全体の場で伝えられることができるのは一部の児童でみんなと関わりながら授業を創っていかうとする意識が低い。

研修テーマ

自ら学ぶ みんなと学ぶ授業づくり

～考え、伝え、つなげよう～

研修の取組

1 目指す授業像を設定

- (1) 「みんながつながる」授業を創るために、「自ら」「みんなと」の2つを柱として、各クラスでめあてを話し合うことで、教師も児童も重点目標をより意識する。

2 具体的な手立て（窓口教科：算数）

- (1) 解決したい課題や問い（自ら学ぶための主な手立て）
学習の見通しをもたせる、導入を5～10分で行う（掛川市学力向上ものがたりより）
かけがわ型スキル「思考力、問題解決力、意思決定力」を高めていく。
- (2) 考えるための材料
ワークシートの工夫、板書の構造化、教具や教材の工夫、数学的活動の取組
- (3) 対話と思考（みんなと学ぶ場の設定）※本年度の最重点
練り合い（つなげる言葉）、ICTの活用、ホワイトボードの活用、
学習形態の工夫（コの字型等の座席）、目的意識の明確化
かけがわ型スキル「コミュニケーション力、情報の選択・活用力」を高めていく。
- (4) 学習の成果（学びつづける子を目指す）
学びを確かめる活動、新たな課題や問いの発見につながるまとめや振り返り
まとめの時間を10分以上確保、学力を定着させる（掛川市学力向上ものがたりより）



特色ある学力向上への取組

外国語活動、外国語の充実

- ・E-A-L-Tとの打ち合わせの時間の確保、掛川スタンダードの活用
- ・振り返りの合言葉を全学年で統一、3つの観点を子どもと共有



家庭学習の充実

- ・家庭学習の手引きを配付し、学習習慣づくりを行う。
- ・掛東学園による、毎月15日わんわんわん運動(ノーマディア)の実施
- ・休校中や自主学習で家庭でのeライブラリー活用推進。校内で使い方を指導して、利用機会を増やす。ホームページで、随時有効サイトを紹介する。

朝活動の作文タイム

- ・「条件に合った文を短時間で」を目標にして書くことに慣れる
- 〈1、2年生〉
作文の基礎、書き方
- 〈3年生以上〉
朝日小学生新聞のコラム欄を活用
中学年・・・テーマに迫った感想
高学年・・・中学年の内容に加えて、
要旨の読み取り
社会情勢への関心を高める。

サマースクールの実施

- ・卒業生の掛東中生や教師による夏休み中の補習学習
- ・先輩に教わることで学習意欲向上



目指す姿

- ・授業で自ら課題に取り組んでいる姿 91%以上
- ・授業でみんなと課題に取り組んでいる姿 91%以上
- ・授業で学習内容をしっかりと定着させて、次の課題に取り組もうと学びつづける姿

掛川市立城北小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 学習に対して、真面目に取り組む姿が多く見られる。
- 課題に対して、自分の考えをもったり、書いたりできる児童が多い。
- ペアやグループの形態での学習に慣れている。
- ▲自分の考えを進んで表現したり、友達の発言から自分の考えを深めようとしたりする力が弱い。
- ▲意見のはき出しが主になってしまい、話合いの深まりに欠ける面が見られる。



研修テーマ

進んで関わり合い、学びが深まる授業



研修の取組

- (1) 付きたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』、主体的・対話的に学び合う中で自己の考えを深める「学び合い」の実現『仕掛ける』、子どもが学びの深まりを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』を意識し、授業を再構築する。

城北小 ペア・グループ 話合いスキル

- (2) 関わり合いの基盤としての「話合いのスキル」を作成。学年や発達段階に即したスキルに変容させていく。

話すとき やさしく話そう！	
1・2年 レベル	① 聞いている人に、ゆっくりはっきり話す。 ② 理由をつけて話す。
3・4年 レベル	③ ノートや教科書を指さしながら話す。(相手が分かるようにノートに書かないとね！) ④ 相手が分かっているか、確認しながら話す。 (相手の表情を見る・「ここまで分かる?」「どこまで分かった?」「～と思ったんだけど、どう?」「～さん、分かった?」と聞く。)
5・6年 レベル	⑤ 文だちの質問に答える。 ⑥ 文だちの意見を聞いて、思ったことをつなげて話す 同じ…「つけたしで～」「そうそう、だから～だよね。」「例えば、～だったり。」 確認…「つまり、～ってこと?」 違う…「でもさ～」「だってさ～」「～さんの考えはわかるんだけどさ」 ?…「ここまで分かったんだけど、その後がわからないな。」

- (3) じょうほう型スタンダードをもとに、必要な児童への合理的配慮がなされているかを確認し、ユニバーサルデザインを意識した授業作りをする。





特色ある学力向上への取組

言語活動の充実

- 金じろうタイム…書くことに慣れ、表現する力を付ける活動
- スピーチタイム…話すことに慣れ、わかりやすく伝えた、表現したりする力をつける活動

家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより・e じゃん掛川
- 家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…
「城北小学校生活の約束」
- e ライブラリアドバンスの活用
- あいさつ活動の充実
- 冀北学園「地域コーディネーター」との連携



道徳教育の充実

- 「かけがわ道徳」の実践の充実
（「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」の活用）
- 道徳コーナーの設置・ふり返り
- 道徳だよりの発行

基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う
- 「つけたい力」を明確にした授業
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- ICTを活用した外国語活動
- 児童の実態に合わせた Can-Do リストの作成
- プログラミング学習の充実



ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

- じょうほく型スタンダード
「授業づくり」「生活づくり」の推進
- 特別支援教育の情報発信

じょうほく型スタンダード（授業づくり）

授業の基礎技術	
教員	1 授業のながやきを把握、着実な表現で語っている。
	2 指示などは物言（言葉）だけでなく、顔表情、身振りに配慮するようにしている。
	3 授業の中で、話し合いを促しながら、聞き取りやすい声、声高さを保っている。
	4 抽象的な表現、あいまいな表現を避けて、具体的な表現で話すようにしている。
	5 全体への発問や指名したあと、個々の声かけなどによって一人一人を促している。
	6 多量で細い学習目標を設定し、生徒で個人が事前に気づいていく授業の進め、授業の内容が分かる進めを模索している。
	7 板書は授業の後ろの位置から見えるような文字の大きさ、行間になっている。
	8 ノートに書きやすい、ポイントをばった板書、文意で板書をしている。
	9 ノートの取り方（教科書開きなど）を指導し、2を指導している。
	10 見出し、写真・動画・音声などを活用し、2の学習内容を分かりやすくしている。
	11 学習で使うプリントやワークシートは、シートが大きさを、平均的な部分の大きさに配慮し、読んだらよいしやすさを保っている。
標準の工夫	
教員	12 かけがわを前提にし、自覚や本時のために、学習の進めやゴールを提示し、児童が認識しをもって取り組めるようにしている。
	13 授業のねらいに即して、活動を実施している。
	14 授業のねらいに即して、評価を実施している。
	15 主体的な学びや、まどめ（振り返り）を促進するための、学習活動の時間配分を工夫している。
教員	16 自己の考えを深めたり高めたりするためのペア学習、グループ学習、一斉学習など、様々な学習形態を工夫している。
	17 本時のかけがわを全員で確認する、まどめの時間を確保している。
	個別の支援
教員	18 気になる児童についてつまずきを把握している。
	19 気になる児童のつまずきに対する支援を実施している。
	20 気になる児童のつまずきに対する支援について評価・改善している。



目指す姿

- ・自分から積極的に意見を言ったり、他者の意見を興味をもって聞いたりして話し合う（対話する）児童。
- ・目標が達成できる、自分の考えが深まったり、確かなものになったりする児童。

掛川市立第一小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・「ともに学び合う授業」が浸透し定着してきたことで、自分の考えをもつとともに、「わかった」「できた」を実感する子どもが増えている。
- ・本時の目標、学習問題、まとめ・振り返りの一貫性を意識して授業を構想したことで、主体的に学ぶ児童が増え、基礎・基本の学力が定着している。
- ・ペア・グループの学び合いでは多くの考えや疑問が出されるが、全体の場で消極的になり、生かさないことがある。
- ・基礎的・基本的な問題の学び合いによる、学級全体の底上げが充実してきた一方で、学力が高い子どもの意欲や力が高まっていかないことがある。



研修テーマ

ともに学び合う

～夢中になって学び合う、「掛ージャンプ」の創造～

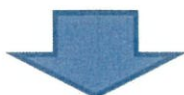


研修の取組

付けたい力を明確にし、子どもの姿で具体的にイメージして「掛ージャンプ」を設定することができたか。

- ①夢中になって学び合う「掛ージャンプ」であったか。
 - ・学力が高い子どもたちの意欲や力を、さらに高めることができたか検証する。(1人では解決できず、学び合いながら未知の事柄を探究していけるような課題を考える。)
- ②付けたい力を明確にし、具体的にイメージした子どもの姿が見られたか。
 - ・本時の目標や観点に適したA評価・B評価の子どもの姿を設定し、達成状況を検証する。

参観者は学力上位である着目児童の表れを見取り、上記の①②について評価を行い、有効な手立てや支援について研修を深めていく。



特色ある学力向上への取組

＜共通実践事項の設定＞

- ・子どもの聴こうとする気持ちを育てる。
(コの字型座席配置、子どもの発言を子供に返す、など)
- ・ペア、グループでの学び合いを、考え作りの段階で取り入れる。
- ・ねらいに沿ったまとめや振り返りを行う。

＜全体研修の充実＞

- ・佐藤雅彰先生を講師として招聘し、中心授業、公開授業に対してだけでなく、校内研修への助言をいただく。
- ・全員が年間1回以上、授業公開を行い、指導をいただいたり、お互いに見合ったりする。

＜掛一小笑顔いっぱいの英語活動＞

- ・3つの Good
Good smile, Good voice, Good reaction
を推進し、振り返りカードを活用する。
- ・外国語専科の配置
外国語の専科教諭が全学年の年間計画を作成し、ALTと打ち合わせをして、計画的に授業を進めることで統一した指導を行う。

＜目指す授業像を学年で設定＞

- ・「こんな授業をしたい」という子どもの主体的な学びの姿勢を醸成する。
- ・同じ学年の担任同士が、学級の実態や付けたい力を話し合い、統一感のある授業や指導を心掛ける。
- ・同学年や異学年の授業を児童も参観し、成果や課題、目標を明確にするとともに、参観される側にとっても成果を実感する機会としていく。

＜学びに必要な基礎基本の定着・徹底＞

学習指導「学習のルールやマナーを身につける」

○「教師の授業の心得」(ステップアップ研修参照)

・子どもに指導する「学習のルール」の検討
※基本は「学習に必要なものは持っていない」
「学習に集中できる文房具」

筆箱の中身(入学時の授業が基本)

○ペンケースは使わない。
○カバンも使わない。
○シャープペンシルは使わない。

えんぴつ3本 赤・青えんぴつ よく消える消しゴム
定規 ※詳しくは、学用品チェックカード参照

※授業に集中して取り組むために必要性を伝える
※2月の懇話会で保護者に伝える。

○掛一小のスタンダード

① 目標と目的
「A」定規を使う。

② 学習問題一歩で線引きを使って読む
まとめ、音の線引きを使って読む。
文章問題・文章を書く
黒りんきおうへんに

③ シン問題番号の書き方

1 2

上記のように、学習に必要な心構え、学習の仕方等をどの学級においても統一し、指導をすることで、安心して学習に臨むための土台作りをする。

- ・eライブラリアドバンスを家庭でも実施できるようにし、活用を呼び掛ける。

目指す姿

自分で考え進んで行動

- ・1人では解決できないような課題に、子ども同士が主体的に関わり合い、夢中になって学び合おうとする。
- ・学級のどの子も孤立することなく、全員が参加する。
- ・仲間とともに課題解決することで、「わかった」「できた」が実感できる。

掛川市立第二小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

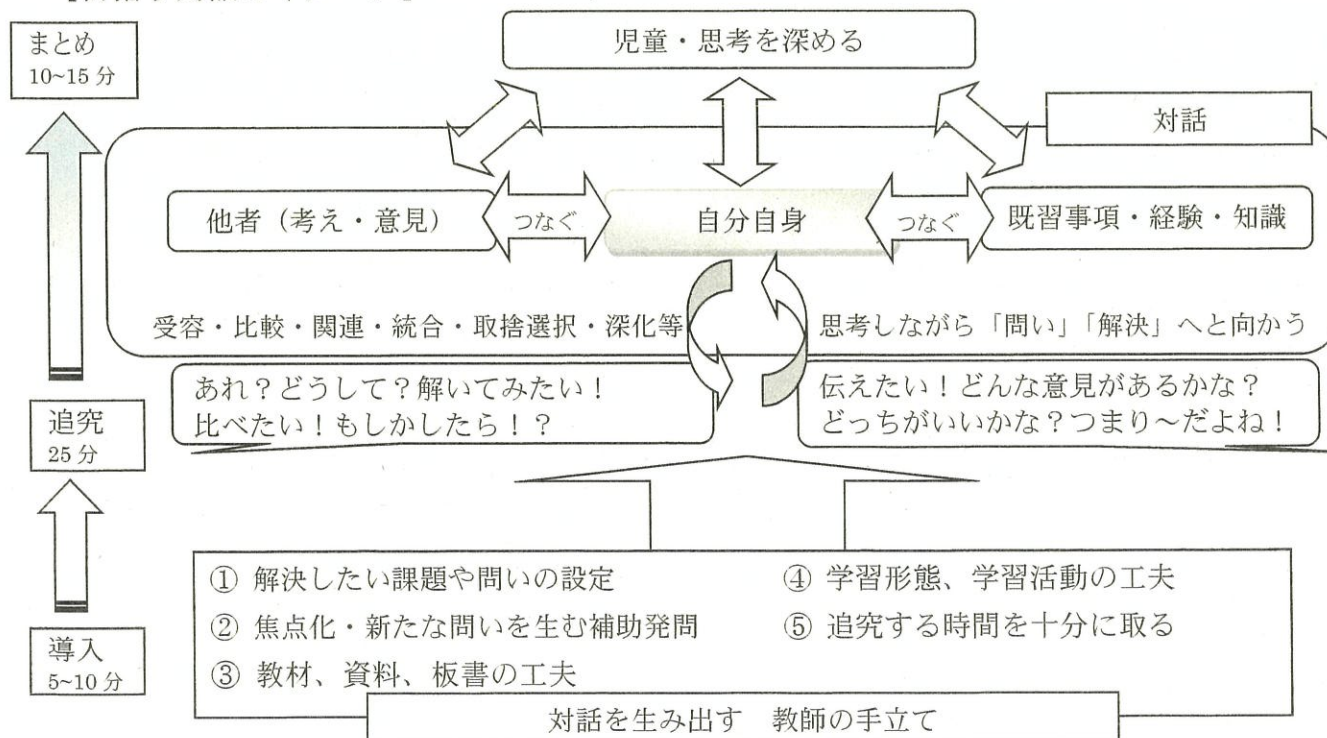
- 場面設定や導入の工夫をしたり、対立場面を設定したりする授業作りを進めてきたことで、子どもの「やってみたい」という思いが生まれ、意欲的に取り組む児童が増えた。
- 自分の考えをもたせ、目的を明確にすることで、積極的に話し合いに参加できる児童が増えた。少人数での対話では意見を伝えることができている。
- ▲自分達で「解決しよう」という意識が弱く、「問い」を見つけ、解決をしていく問題解決力が弱い。
- ▲意見を伝えることはできるが、意見交換のみになってしまうことが多い。意見を繋げたり、練り合ったりする対話ができている。

研修テーマ

対話を通して、思考を深める児童の育成

研修の取組

【目指す対話のイメージ】



※かけがわ型スキル・・・問いを見つけ、対話を通して解決する力（思考力と問題解決力）に力を入れて指導をする。



特色ある学力向上への取組

子どもの「対話力」を向上させるための「聴き方・話し方レベル表」の活用

授業の中で先生や友だちの考えを聴くこと、自分の考えを話すことは学力の定着、向上に必要なことである。そこで、本校では「聴き方・話し方レベル表」を活用し、授業における目指す姿を子どもたちと共有している。

今年度からは【聴き方】と【話し方】に分け、各学級で掲示することにより、より具体的な姿を子どもたちに明示している。授業で表れた良い姿を具体的に書き足したり認めたりしていくことで、子どもたちの対話力を育成し、学力向上へつなげる。

レベル	話し方
レベル1	相手の話を聞き、よく聴く
レベル2	相手の意見を比べてつなげる
レベル3	相手にわかるように話す
レベル4	相手の姿を見て話す
レベル5	聞こえる声で最後まで話す

レベル	聴き方
レベル1	相手の言いだいたいことを理解して聴く
レベル2	相手の意見と比べながら聴く
レベル3	相手の意見に反応しながら聴く
レベル4	うなずきながら聴く
レベル5	相手の姿を見て、おへぞきながら聴く
レベル6	相手の姿を見て、おへぞきながら聴く

思考を連続させ、自分の考えと他の発言を繋げるための「ハンドサイン」の活用

授業の中で、子どもが思考を連続させ、自分の考えと他の発言を繋げる力を育成するために、ハンドサインの活用を全校で統一した。子どもが【グー】【チョキ】【パー】で挙手することは、前の発言と自分の考えを比較（思考）するという作業を意味する。ハンドサインを活用することで、思考を連続させ、子ども同士で考えを繋げ、自分たちで練り合う授業の実現を目指していく。

ハンドサインでつなげていこう【対話力UP】



「意見があります」



「質問があります」



「別の意見があります」

外国語教育

毎週火曜日を「English Day」と定め、授業の挨拶などを英語で行い、低学年から英語に親しみやすい環境作りをしている。また、外国語活動の授業では、積極的にゲームを取り入れ楽しみながら外国語に慣れ親しむ活動を中心に行っている。英語科の授業では、「必然性のある交流活動」を大切に、ランキング作り・クイズ・ハテナBOXなど交流活動を工夫することで、子どもたちのたくさんの人と話したいという意欲を高めたり、アルファベットの太文字・小文字、簡単な英単語や英語表現を書いたりする活動を取り入れている。

家庭学習の充実・家庭との連携

「家庭学習の目的とポイント」「家庭学習でステップアップ」を全児童へ配布し、家庭での学習習慣と学習内容の定着を図っている。3～6年生には、週末の家庭学習に自主学習を取り入れた。これにより、自らめあてをもち、考えて学習に取り組む力を養いたい。

また、eライブラリの家庭での活用の推進、読書活動の推進として「うちどく」（家での読書）や「読書推進週間」（親子読書・読書時間の確保）を設定している。



目指す姿

【対話を通して、思考を深める児童】

児童が自分の考えをもち、友達の考えと比較したり、練り合ったりする中で、自分たちで「答え」や新しい「問い」を見つけるなど、思考が広がったり深まったりする姿。



掛川市立中央小学校



令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

【学校評価の結果より】

- 3BIGで授業をがんばる（研修テーマ「対話を通して学びを深める授業づくり」の姿に育ってきたか）
（児童）89%（保護者）92%（職員）91%
- 授業の内容がわかる（基礎基本、学習の約束、朝活動は有効であったか）
（児童）92%（保護者）89%（職員）85%
- 少人数での対話に慣れ、定着してきた。また聞く・話す力が育ってきている。
- ▲児童の対話スキルの個人差が大きく、うまく対話に入っていけない児童がいる。
- ▲教師の「対話に対する捉え」が曖昧だったり不十分だったりしている。「目標に向かっていくための対話」について追究することで、児童の対話の質を向上させ、学力向上につなげていく取組が必要。



研修テーマ

対話を通して学びを深める授業づくり



研修の取組

研修の仮説

各教科部で「学びを深めるための対話」とはどのようなものかを検討し、実践や振り返りを繰り返して授業づくりに励むことで、子供たちの学びが深まるであろう。

本年度の本校の取組

- ・個人として、1つの教科部に所属し、主としてその教科の授業力・指導力を磨く。
- ・教科チームプランを作成し、実践を積み重ねることで、「学びを深めるための対話」とはどのようなものか、各教科チームで研修する。
- ・全体研修や日々の学年研修等で、各教科部の取組を報告し合い、全職員や学年間の共通理解を図る。
- ・年間を通じて、外部講師を招聘し、指導を受けることで、教科の専門的な知識を学ぶ。



特色ある学力向上への取組

ぴったりアクション

ぴったりアクション(授業編:教師用)

活動時間	15分間
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 職員室で各机をのけて教室へ 白紙が壁に貼られているか確認 白紙(児童用)4枚、1m(50cm)定規、ノリ用テープ、マスキングテープのみ 予定白紙は教師が丁寧に書いてある 予定白紙下部:各予定、次時学習予定のみ(プリントは縦向き) 予定白紙上部:各予定、次時学習予定のみ(プリントは横向き) 空欄(下)：階級、階級は担任が教室への進出で開ける 「おはようございます」の元気あいさつで入室 当番活動の責任を持って行われているか確認 「休み時間」の準備が整っているか確認 「休み時間」の準備が整っていない場合は、用紙に記入する 8:00、8:05、8:10、8:15、8:20、8:25、8:30、8:35、8:40、8:45、8:50、8:55、9:00、9:05、9:10、9:15、9:20、9:25、9:30、9:35、9:40、9:45、9:50、9:55、10:00、10:05、10:10、10:15、10:20、10:25、10:30、10:35、10:40、10:45、10:50、10:55、11:00、11:05、11:10、11:15、11:20、11:25、11:30、11:35、11:40、11:45、11:50、11:55、12:00、12:05、12:10、12:15、12:20、12:25、12:30、12:35、12:40、12:45、12:50、12:55、13:00、13:05、13:10、13:15、13:20、13:25、13:30、13:35、13:40、13:45、13:50、13:55、14:00、14:05、14:10、14:15、14:20、14:25、14:30、14:35、14:40、14:45、14:50、14:55、15:00、15:05、15:10、15:15、15:20、15:25、15:30、15:35、15:40、15:45、15:50、15:55、16:00、16:05、16:10、16:15、16:20、16:25、16:30、16:35、16:40、16:45、16:50、16:55、17:00、17:05、17:10、17:15、17:20、17:25、17:30、17:35、17:40、17:45、17:50、17:55、18:00、18:05、18:10、18:15、18:20、18:25、18:30、18:35、18:40、18:45、18:50、18:55、19:00、19:05、19:10、19:15、19:20、19:25、19:30、19:35、19:40、19:45、19:50、19:55、20:00、20:05、20:10、20:15、20:20、20:25、20:30、20:35、20:40、20:45、20:50、20:55、21:00、21:05、21:10、21:15、21:20、21:25、21:30、21:35、21:40、21:45、21:50、21:55、22:00、22:05、22:10、22:15、22:20、22:25、22:30、22:35、22:40、22:45、22:50、22:55、23:00、23:05、23:10、23:15、23:20、23:25、23:30、23:35、23:40、23:45、23:50、23:55、24:00

どの教室でも、同じように教育環境が整えられ、「当たり前前のことが当たり前」に行われることで児童は安心して学習に取り組むことができる。そのために、授業の流れや約束を統一して視覚化したものが「ぴったりアクション」である。

外国語活動の充実

○モーニングEタイム(毎週火曜日朝活動)



発音の学習を中心に、ビデオを見ながら、楽しく外国語を学ぶ時間。

○低学年からの英会話活動(生活科)



「BIG EYES」「BIG VOICE」「BIG HEART」の3BIGを意識して楽しく英語に慣れる活動。みんなが「英語大好き」になることを目指す。

高学年教科担任制及び教科チーム

6年生の場合 ※学活・道徳・総合は学級担任が受けもつ

1組担任	2組担任	3組担任	級外	級外
6年国語科 12時間	6年算数科 13.5時間 6年音楽科 4.5時間	6年社会科 7.5時間 6-2体育	6年理科 9時間	6年外国語 6時間 6年家庭科 4.5時間

高学年は教科担任制を基本としている。新学習指導要領への対応、教材研究の効率化、教科の専門性の向上をねらったものである。

教科チームとは

「国語科」「算数科」「社会科」「理科」「外国語」の5つの教科チームを設定した。高学年は教科担任制で担当する教科チームに所属する。1～4年・級外職員もいずれかのチームに所属する。教科部研修で授業研修を積み重ねることにより、教科の専門性を高め、授業力を磨くことができる。

午前5時間制の導入

朝の会	8:00 ~ 8:10	
1時間目	8:10 ~ 8:55	10分
2時間目	9:05 ~ 9:50	10分
3時間目	10:00 ~ 10:45	15分
中央タイム	10:45 ~ 11:00	
4時間目	11:00 ~ 11:45	5分
5時間目	11:50 ~ 12:35	
給食	12:35 ~ 13:20	45分
昼休み	13:20 ~ 13:50	30分
そじ	13:50 ~ 14:05	15分
6時間目	14:10 ~ 14:55	

- 集中力の高い午前中に5時間の授業ができる。
- 特別日課が減り、学校生活のリズムの安定となり、学力向上につながる。
- 放課後のゆとりが、授業の充実につながる。

ICTを活用した授業づくり

- ・全館無線 LAN 環境の有効活用研修
- ・児童の対話の質向上をねらいとした、ICT活用研修
- ・eラーニングを用いた家庭学習の充実
- ・デジタル教科書の利用研究
- ・新授業支援ソフトの導入・研究



目指す姿

児童が「解決したい。」「納得したい。」「納得させたい。」等という思いをもった対話をするを通して、個の学びを深める姿

☆児童が、課題や学習問題を「自分ごと」として捉え、「人・もの・こと」を関わらせて対話することで、確かな理解や学びの充実に結びついた実感を得られること

掛川市立曾我小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・人権教育の県指定を受け、授業中での人権意識、人権感覚の育成を視点に入れた授業研究を行う中で、子どもの人権意識が高まった。
- ・「伝え合い」を意識した授業づくりを行い、少人数や全体での伝え合いの場を確保する中で、思った事を自由に言い合えるようになった。
- ・児童アンケートで授業が「わかる子」が91%「わからない子」が9%。
- ・子ども自身に「これがわかった!」「できた!」という実感をもたせたい。



研修テーマ

「わかった!」「できた!」学びの実感がある授業づくり



研修の取組

- 研究仮説：学習問題を解決するためのさまざまな伝え合いをし、自分が学んだことを確認する時間をとれば、「わかった」「できた」を実感する子が育つだろう。
- ・研究授業をP（事前研修）D（研究授業）C（事後研修）A（有効な手立ての共有）サイクルで行う。
 - ・コミュニケーション力を育むために伝え合いの2つの場（小集団、全体）を意識的に設定する。
 - ・「伝え合いによって、子どもがどう変わったか？」を授業評価の視点とし、子どもの変容から授業の評価を行う。
 - ・授業のまとめを書く時間を確保する。自分の言葉でまとめが書けるように時期や各学年などの段階を考慮して実践していく。
 - ・授業の中で、いつ、どんな場で伝え合いを設定するのか研究する。
 - ・思考力、問題解決力を育成する手立てとして有効であったものは今後の各学級の実践に取り入れ共有していく。
 - ・研修教科は自由とし、各教科の学習指導要領の変更、教科書の変更に伴う情報を日常的に発信して共有していく。





特色ある学力向上への取組

学習3の確実な定着

- ① 学習用具をそろえる
- ② 聞き手を見て話す
- ③ 話し手を見て聞く

全校の共通理解事項として提示し、3つの定着の確認を児童アンケートも併せて行い、達成できる子90%をめざす。

朝算、朝国、スピーチの実施

- ・木曜と金曜の朝にそれぞれ国語、算数の10分間のドリル学習を行う。
- ・7月にたしかめテストを実施し、定着度の確認をする。
- ・朝の会でひとりずつのスピーチを年間を通して行う。

共に高まるノート展、見せ合い授業

- ・年2回、7月と2月に廊下にノートの展示を行う。
- ・参観会の週に合わせて展示する。
- ・各学年で1つ上の学年の授業を見る機会を設ける。
- ・授業を見た感想を伝える。

伝え合い名人の紹介



外国語教育

- ・新かけがわスタンダード Can-Do リストの活用。
- ・ALTとの打ち合わせ時間の確保。
- ・各学年、全授業分のワークシートの作成。

eライブラリの活用

- ・年度当初に活用の仕方を説明し、IDやパスワードを配布する。
- ・長期休暇での活用を呼びかける。
- ・更新内容や使い方の説明をおたよりやメールを通して随時行う。



目指す姿

伝え合ったことをもとに、自分の思いや考えを深め、まとめる子

- ・学習のまとめを自分の言葉で書ける。
- ・「わかった」「できた」という実感をもつ
- ・自分の変化、成長を感じられる。

掛川市立桜木小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 出された問題や取り組むべき活動に対して真面目に取り組むことができる。
- 「どういうことだろう？」と疑問を感じられたり、「もしかしたら〇〇かもしれない！」と見通しをもてたりするとき、学習への主体性が高まる。(桜木小では、この姿を「子どもたちの問いが生まれる」と定義している)
- ◆聴く力を高め、友達の考えのよいところを取り入れながら、自分の学びを深めていく力を伸ばしていきたい。
- ◆その時間に学習したことは理解できるが、「つまり、今日の学習を通して〇〇ということが分かった。」というような一般化する力をさらに育てていきたい。

研修テーマ

どの子ども学び続ける授業の創造 ～子どもたちの問いを生み、学びを深める～

研修の取組

研究の柱① 子どもたちの問いを生む単元デザイン

学び手の視点で単元デザインをすることで、子どもたちの問いが生まれ、「自分ごと」として主体的に学んでいく子が育つだろう。単元としての学びのつながりを意識する中で、子どもたちが興味・関心や学習の見通しをもったり、「問いや考え」を再構成したりできるような単元構想(単元デザイン)のもと授業づくりをしていきたい。

- ・子どもたちが問いや考えをもつ授業構想
- ・子どもたちが問いや考えを再構成していく単元構想
- ・子どもたちの問いが連続していく単元構想

研究の柱② 子どもたちの学びを深める全体整理

全体整理(その時間の学習をまとめていく時間)の発問を工夫し、子どもたちの思考の流れでまとめていくことで、「今日分かったことは〇〇だ。」と自分の学びを一般化することができるだろう。分かったこと(学習のまとめ)を自分の言葉で書く活動を取り入れることで、より確実に学習したことを定着させていきたい。

- ・子どもたちの思考の流れで付けたい力に収束していく発問
- ・分かったこと(学習のまとめ)を自分の言葉で書く活動

特色ある学力向上への取組



「自分ごと」の学びの土台をつくる

- 学んでいく子の育成
 - ・自分ごととして聴く
 - ・他者を意識して伝える
- 学びの環境づくり
 - ・温かな学級経営
 - ・話し方・聴き方を整える
 - ・筆入れの中身を整える
- 学びの構え「桜が丘学園『授業5原則』」
 - ・人の話を集中して聴こう（重点項目）
- 読書指導
 - ・必読図書・読み聞かせ・家読（うちどく）
 - ・本読みカードの工夫
- 基礎基本の定着
 - ・のびのびテスト
 - ・eライブラリ（家庭学習の充実）

外国語教育でコミュニケーション能力を高める

- 外国語専科教員とALTによる授業
 - ・実際のやり取りを見て学ぶ
 - ・聴く・話す体験の充実
 - ・読む・書く活動のよりよい支援
- 新かけがわスタンダードの活用
 - ・主体的に取り組む態度を引き出す
 - ・中学校までの学習を意識した活動

他者意識を支える気づく力を育てる

- 「あいさつ」で人とつながる
 - ・相手の名前をつけてあいさつ
 - ・時と場に応じたあいさつ
- 「やりますアクション」で広がる
 - ・役立つ自分を伸ばすやりますアクション
 - ・みんなが笑顔になるやりますアクション
- 掃除で心を整える
 - ・任されたことに責任をもち、信頼される
 - ・「ありがとう」の言葉で、人の役に立つ喜びを感じる

レジリエンスの育成

～しなやかでたくましい心と体～

- 体育の授業で高める運動意識
 - ・目標を決め、継続して行う
- レジリエンス（しなやかでたくましい心と体）の理解
 - ・基本的な生活習慣を整え、ソーシャルスキルの向上
- 「健康の日」に桜が丘学園共通の指導
 - ・レジリエンスを理解する
 - ・見方を変える考え方
 - ・リラックス法
- 桜が丘学園共通の保健便りの発行
 - ・保護者にもレジリエンスを広める

めざす姿

- ◎「自分ごと」として学びを捉え、学び続けていく子
 - ・自分のもっている知識を活用して、自ら考えることができる子
 - ・自己解決にとどまらず、他者と協働して解決の幅を広げ、学びを深めていく子

掛川市立和田岡小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 授業の導入で実物を見せたり実演をしたりと工夫することで、子どもの学ぶ意欲が高まった。
- ふりかえりが習慣化することで書くことが積み重なり、自信をもてたり知識となったりして子どもの力になった。(令和元年度11月の学校アンケートでは、児童の90.4%が「授業が分かる」と答えている。)
- ▲学習問題を本気で考えず受け身であったり、大勢の前で意見を言えなかったりする。

研修テーマ

主体的に学ぶ児童の育成
～児童の思考にそった学習問題の設定を通して～

研修の取組

研修仮説

疑問を生み出す導入を工夫し、「児童の思考にそった学習問題の設定」をすることで、子どもが主体的に学ぶことにつながるだろう。

研修内容

- (1) 「児童の思考にそった学習問題の設定」
 - ①子どもが疑問を生むような導入の工夫
→実物、写真、ICT、資料などを活用する。
 - ②子どもが「こうすれば解決できそう!」と思わせる学習問題を設定する。
→子どもが見通しをもって粘り強く学習することにつながる。
「○○を知りたい。」「どうしてこうなるの?」「またやりたいな。」



特色ある学力向上への取組

自分の考えをつくるための基礎的な知識・技能の確実な定着

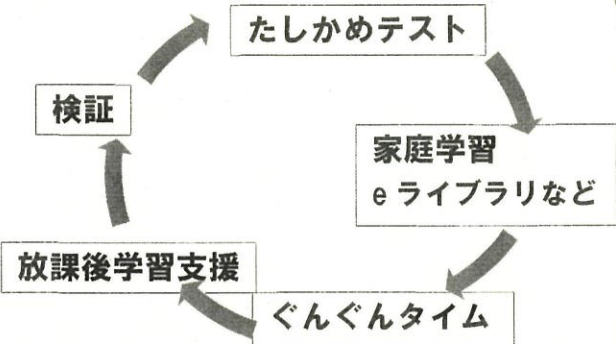
(1) 個に応じた指導

①ぐんぐんタイム（年間 17 回）

・担任が、個別支援が必要な児童を拾い上げ、どのような支援が必要か企画、実施する。担任と級外職員が、定着が不十分と見られるところを指導する。その後、個々の伸びを検証する。

②放課後学習支援（年間 14 回）

・地域ボランティア、級外職員が、個別の学習支援を行う。担任は、個々の児童の習熟度を把握し、児童ごとの課題を用意する。たしかめテストの結果、個人の伸びを検証する。



(2) 読書

①朝読書（必読図書の読破を目指す）

→読破した児童には、掲示板に名前を張り出したり、読破賞を渡したりする。

本音で語る道徳科

(1) 多面的・多角的思考につながる発問・授業公開

①参観会、学校運営協議会、学園一貫研で授業公開

②道徳コーナーの活用（毎時間の授業の板書を写真で掲示する。）

外国語活動

外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質能力を育てることを重点としている。3good (good smile, good voice, good reaction) を合い言葉にし、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。



目指す姿

子ども同士が本音で関わり考えを深める子

掛川市立原谷小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度の研修の取組「子どもが主体的に考え、解決したくなる学習課題」
「子ども同士の関わり合いの工夫」



- 子どもたちの「学びたい」「解決したい」という意欲を引き出すことができた。
- 小集団での発言が増え、子どもが主体的に取り組む授業が増えた。
- △「何を学んだのか」が分からず、まとめや振り返りを書けない子が多かった。
- △「自分の考えを伝え合う」だけに留まり、考えが深まらなかった。

研修テーマ

子どもが学びに向かう力を育む授業

～「まとめ」と「活用」を視点にして～



研修の取組

<研修仮説>

子どもの実態や思考過程をとらえて、子どもの姿で授業を語る研修を行い、授業で学んだことを自分の言葉でまとめさせ、自分の学習を振り返らせたり、身に付けたことを活用する場を単元構想の中で計画的に設定したりすることで、子どもたちが主体的に学びに向かい、より確かな学力を身に付けることができるだろう。

<研修の重点>

- ① 子どもが単元を通して身に付けたことをまとめ、活用する場の設定
 - 単元計画
子どもが身に付けたことを活用できる場（方法・タイミング等）について、単元構想であらかじめ計画し、実施する。
 - どのような活用方法があるかを検討する。
作文、音読発表会、キーワードを用いた新聞作り、子ども自身による問題作り、言語活動（伝え合い）、相手意識をもった説明（ワールドカフェ方式）、自らの考えの変容を記録するワークシートの活用等。
- ② 子どもが本時で学んだことを、自分の言葉でまとめ振り返る活動の充実
 - 本時で学んだことを、子どもが自分の言葉でまとめる。段階を追って、振り返りの活動も充実させていく。
 - まとめ、振り返りをする時間を確保できるよう、時間配分を工夫する。
 - 子どもが思考を整理でき、授業の展開が分かるような板書を計画し、行う。

特色ある学力向上への取組

◆すすんでホームワーク

- ・「学年×10分+10分」以上
- ・同じ場所、同じ時間帯に
- ・保護者の見届けや丸付け
- ・eライブラリ
- ・漢字学習ノートを使用し、活用する漢字学習を推進

◆自己決定する家庭学習

- ・宿題に「選択学習」を設定
- ・教科、難易度、問題量を変えた複数のプリントの中から、自分に合った宿題を選択させる

◆スタディタイム

- ・毎週火、水、金の朝活動
- ・定着ができていないところを適宜取り上げ、取り組む時間
- ・音読、タイピング、九九暗唱など、ドリル学習以外も行う

◆学習習慣の確立

- ・聴く体勢（話す人の目を見る）
- ・持ち物の約束
- ・ノート指導
学習課題を赤、まとめを青で囲む

◆中学校教員による交流授業

- ・原野谷中数学科教員との
T.T 授業
(6年生 毎週火曜日)
- ・原野谷中英語科教員
による授業
(6年生 毎週火曜日)
新掛川スタンダードの活用
デジタル教材の活用



中学校教員による
外国語活動

目指す姿



すすんで学びに向かう子



できた！わかった！

わかるって、楽しい！！

もっとやってみたい！

◎必要感をもって友達の考えを聞き、目的をもって伝え、話し合い、協力しながら、考えをより深めていく子

◎「分かるようになりたい」という意欲をもち続け、くじけず、学びを続ける子

◎漢字の読み書き、計算力を中心とした基礎学力が定着している子

掛川市立原田小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 根拠をもとに自分の考えを作ったり、話し合いをしたりする姿が見られた。
- 「まず」「次に」「つまり」のようなつなぎ言葉を使って、順序立てて説明できるようになってきた。
- △友達の考えを聞いたときに、思考が止まり、そこから思考を広げていくことができない。
- △論理的表現力が低い。筆算のやり方のような形式的な説明は、「まず」「次に」と順序立てて説明することはできていても、それ以外では途端にわかりにくい説明になる

研修テーマ

進んでとことん学び合う子

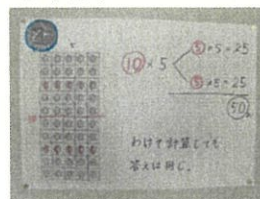
～論理的な思考力・表現力の育成を意識した指導を通して～



研修の取組

- 「論理的思考力」…①根拠をもとに、見通しを持ち、筋道立てて、自分の考えを作る力
②友達の考えを聞いて、思考を広げていく力（否定的・統合的・発展的に考える力など）
- 「論理的表現力」…図・式・言葉・操作を使い、筋道立てて表現する力

- (1) 導入の工夫 * 論理的思考力・表現力を育成するための基盤
子どもが「考えてみたい」「友達の意見を聞きたい」と進んで動き出したいようになるように、「教材の選定」「教材の提示の仕方」「教師の発問」を意識して授業を構想する。
- (2) 算数アイテムの活用 * 論理的思考力①の育成
新しい問題を解決するために使う既習学習・算数表現を「算数アイテム」と呼ぶ。
 - ・新しい単元に入るとき、単元の系統性を確認し、問題解決に必要な算数アイテムを掲示・展示し、子どもがいつでも使えるようにする。
 - ・新単元に入る前にじゅんぴテストを行い、既習学習の押さえをする。
- (3) つなぎ言葉を活用した言語活動 * 論理的表現力・論理的思考力②の育成
 - ・各学年で付ける「つなぎ言葉」は必ず指導する。
 - ・身に付けさせたいつなぎ言葉を、教室に掲示し、授業の中で常に意識させていく。
 - ・授業の中でとなりの人との「説明タイム」を必要に応じてとる。
 - ・子どもから出させたいつなぎ言葉（身に付けさせたい思考）を決め、そのつなぎ言葉を出させる授業を構想していく。
 - ・授業の最後には、ノートに「ふり返り」をできるだけ書く。
 - ・教師は、子どもの発言の中の「つなぎ言葉」に注目し、「つなぎ言葉」が出てきたら聞き返したり、他の子どもに広げたりするように心がける。





特色ある学力向上への取組

基礎・基本の定着

- ・毎週火曜日の朝活動でドリルタイム（漢字計算・ワード）を行う。
- ・年4回「とことんテスト」を実施し、合格するまで、とことん再テストを行う。
- ・静岡県定着度調査・全国学力学習状況調査の分析を行う。

外国語活動の充実

- ・新掛川スタンダード Can-Do リストを活用した外国語授業を行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。



家庭学習の充実

- ・参観会や学年便りで、保護者に家庭学習の大切さを伝えていく。
- ・eライブラリーを活用した家庭学習を行う。
- ・家庭学習の時間「学年×10分+読書10分」を意識させ、音読カードなどに毎日学習時間・読書時間を記録させる。

原谷小・原野谷中との連携

- ・原谷小とキラリ音楽発表会に向けての音楽交流（4年）を行う
- ・原谷小と自然教室（5年）を合同で行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。



語彙力の向上

- ・国語の授業では国語辞典を傍らに置き、いつでも活用できるようにする。
- ・ワードプリント（国語の教科書「言葉の宝箱」より）を作成し、ドリルタイムの時間に行う。
- ・ステージに1回、ワードコンテストを行う。



目指す姿

全員が進んで授業に参加し、 とことん課題を追究し、学び合う姿

自分の考えをみんなに伝えたい

友達の考えを聞きたい

もっと考えたい

もっと調べたい

もっとやってみたい

なんでだろう

例えば.....

.....と思う

だって.....



だったら.....

もし.....

でも.....

掛川市立西郷小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 素直で明るく、やるべきことに一生懸命に取り組むことができる。
- 何を学ぶのか、どのようにやるのかが明確になると、課題に対して自分なりの意見を持ち、友達に伝えようと意欲的に学習に取り組むことができる。
- ◆自分で考え判断し、自己の向上心を図る意識が低く、問題解決能力が低い。
- ◆自分の思いを言葉で伝え合い、人間関係を築くことがまだまだ苦手な児童が多い。

研修テーマ

共によりよく生きようとする子の育成
～他者と関わり、自己を見つめ直す授業を通して～

研修の取組

- 1 「特別の教科 道徳」を窓口教科として行う。
- 2 学びづくり部と連携して他者と関わり、自己の考えを深める授業づくりをしていく。
※「かけがわ型スキル」④コミュニケーション力
- 3 研究内容
 - (1) 考え議論する道徳を目指した指導方法の工夫
 - ① ねらいの明確化
 - ・ねらいとする道徳的価値について明確な考えをもつ。
 - ・道徳性を構成する様相（道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲と態度）を明確にする。
 - ・価値観、児童観、教材観を明確にする。
 - ・教材を吟味し、授業構想をする。
 - ② 発問の工夫 ※「かけがわ型スキル」①思考力 ②問題解決力
 - ・価値に向き合うことができる中心発問を検討する。
 - ・考えを深める問い返しをする。
 - ③ 考えを深める工夫 ※「かけがわ型スキル」④コミュニケーション力
 - ・対話を意識した授業作りをする。
 - ・思考ツール・ワークシートを活用する。
 - ・児童からの自然な問い返しが出るような学習集団作りをする。
 - (2) 児童一人一人の良さを伸ばし、成長を促す評価方法
 - ① 児童の発言の傾聴・共感的理解
 - ・授業中の児童の発言に傾聴して受け止める。
 - ・共感的理解に努める。
 - ② 丁寧な見取り
 - ・「振り返り」の時間を確保する。
 - ・ワークシートの記録を蓄積し、児童の成長を捉え、認め励ます。



特色ある学力向上への取組

【対話を意識した授業づくり】

- ・話す力・聴く力を高める。
(話す聴くタワーの活用)
- ・「対話タイム」毎週火曜日朝活動で実施する。
- ・「小さな道德」を月1程度行う。

めざせ！ てっぺん！ 「話す」タワー

ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見を自分の言葉にかえて話す ・相手の意見につけたり反論したりして話す ・何人かの友だちの意見をまとめる
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・結論（意見）を先に言い、理由を後に付けて話す ・途中で聞き手に伝わっていないか確認しながら話す ・伝えたいものを示しながら話す
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いている人の方を見て話す ・聞いている人に聞こえる声の大きさで話す ・自分の意見を最後まではっきりと話す

めざせ！ てっぺん！ 「聴く」タワー

ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比べながら聴く ・くわしく知りたいところを考えながら聴く ・話し手の意見で分からないところを考えながら聴く
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の言いたいことは何なのか考えながら聴く ・相手の意見に反応しながら聴く
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・手を止めて話している人を見て聴く ・最後まで話している人の意見を聴く ・うなずきながら聴く

【基礎基本の定着】

- ・授業の中で反復練習を位置付ける。
- ・学習の振り返りを重視する。
- ・「チャレンジテスト」を実施する。
- ・読書を通して語彙を増やす。
- ・「学びの6か条」の定着を図る。(筆箱の中身、忘れ物なし、授業準備等)

【外国語活動の充実】

- ・新かけがわスタンダードや前年度までのワークシート等をもとに、担任が授業構想を行う。
- ・校内での伝達研修を実施し授業改善を図る。

【家庭学習での活用】

- ・eライブラリの使用方法とIDを各児童に配布し、家庭活用を啓発する。
- ・「いえ読」を呼び掛け、家庭読書の定着を図り、読書好きな子を増やす。

【傾聴・共感的理解の心得】

- ・授業では、児童の発言に傾聴し、共感的理解をするように心掛ける。
- ・教師は、心得を常に携帯し、考えを深めるための問い返しを意識できるようにする。

常に心掛けよう!!!

さいごう傾聴・共感的理解の心得

1	子どもの顔を見て話を聴く	
2	顔の表情や声の調子、声の大きさやリズムを聴く	伝える
3	小学科の話し、反論しあふ経験をする	練習する
4	意見の裏にある子どもの思いや考えを聴く	共有する
5	どのよりに話を聞きたいかを決める	共有する
6	つづいて話すのを促すこと、話しを促すこと	練習する

おまけ

考えを深めるための問い返し

①	探問	「どうしてそう思ったの？」
②	理由	「そう考えた理由（わけ）は？」
③	具体的	「それって例えはどういうこと？」
④	言い換え	「つまり○○ってこと？」
⑤	立場や対象	「あなたほどおもしろい？」
⑥	確認	「あなたの考えは誰に伝えている？」
⑦	本音	「正直な話、引き出す問い返しを」

おまけ

子ども同士でも、で問い返しをしよう

・「みんなはどう？」で広げる

・質問が問い返しの見本を見せる

・話す・聴くタワーし、ぜひ活用しよう



目指す姿

ふるさとを愛し 未来にはばたく子

掛川市立倉真小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態



研修テーマ

- 与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる。
- 分からない時に、友達に助けを求めることができる。
- 自分の意見を積極的に相手に伝えようとする姿勢に課題がある。
- 「自ら解決したい」「自分の力を高めたい」という、向上心や主体的な意欲に欠ける。

「説明する力を身につけた子」の育成 ～主体的な学びを促す学習課題の設定を通して～

研究仮説

- ① 子どもたちから「問い(課題)」が生まれるような学習課題を設定することで、主体的な学びを促すことができるだろう。
- ② 意図的なかかわりの場を設定することで、説明する力を身につけた子を育成することができるだろう。

「かけがわ型スキル」

- 1 思考力
- 2 問題解決力
- 3 意思決定力
- 4 コミュニケーション力
- 5 情報の選択・活用力
- 6 地域や社会の中で生きるためのキャリア体験

研究仮説①

子どもたちから「問い(課題)」が生まれるような学習課題を設定することで、主体的な学びを促すことができるだろう。 1 2

知りたい・解決したい
考えたい・伝えたい

説明する力

どうすれば相手に伝わるだろう
考えを整理して伝えよう

研究仮説②

意図的なかかわりの場を設定することで、説明する力を身につけた子を育成することができるだろう。 1 2 3 5



特色ある学力向上への取組

子ども主体の 授業

- ・ 目指す授業像の設定
- ・ 聴く、話す、話し合う、書く 学習スキルの習得
- ・ ICT機器の効果的な活用
- ・ 外国語教育の充実 掛川スタンダード

基礎基本 (ドリル学習)

- ・ 朝学習による基礎学力の積み上げ
(eライブラリによる計算の反復練習)
- ・ 冀北テスト(年4回)による定着の確認
- ・ 全学年共通のノート指導、ノート展
→文を書くのが楽しい子の育成

音読指導

- ・ 詩の音読(週3回)

読書活動の充実

- ・ 朝読書(週3回) →読書記録を残す
- ・ 読み聞かせ(教師、ボランティア)
- ・ 身近な図書コーナーの設置(2・3階)

冀北学習

- ・ 主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・ 体験を伴った探究活動
- ・ 「冀北発表会」で地域に発信

課題調査の分析

- ・ 学力調査結果の分析を基にした課題の検討(未定)
- ・ 授業改善(主体的な学びを促す学習課題の設定)

家庭学習支援

- ・ 「家庭学習の手引き」を基にした家庭と学校の共通実践
- ・ eライブラリの活用
- ・ 日記指導

目指す姿

- 低学年・・・自分の思いや考えが友達に伝わるように説明することができる子。
中学年・・・自分の思いや考えを整理し、相手に伝わりやすい方法を工夫して、説明することができる子。
高学年・・・根拠を明確にして、筋道を立てて考え、効果的な情報や手段を選び、伝え方を工夫して説明することができる子。

掛川市立土方小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度、「主体的に学び続ける子」の育成を目指し、『伝え合い「問い」を解決する授業』をテーマに①学習課題 ②意図的な交流活動についての研修を行ってきた。成果と課題は以下の通りである。

○教師側が工夫することで、どの教科でも対話を通して考えを深める授業が可能ながかった。

○「伝えたい」「自分と異なる考えを聞きたい」という意欲と目的意識をもつことができた。

▲目標に向かう学習課題を設定するために、先を見通した授業計画や教具の選択などの事前準備をしてから毎日の授業に向かう大切さを感じた。

▲話し合いをする意図を明確にすることや、話し合いの中での児童のいい表れを見つけ、全体に紹介することを繰り返し行っていく必要がある。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

- (1) コミュニケーション力育成を目指す単元デザイン～対話活動の質的向上～
 - ①コミュニケーション段階表に基づき各教科・領域で、段階別の目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。
 - ②単元の中で、考えが深まる「問い」や「場面」を設定する。
 - ③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業設計診断（県総合センター発行）を活用し、指導計画を立てる。
- (2) 考えが深まっている姿の追究
 - ①「対話を通して考えを深めた授業」について成果と課題をあげ、年間指導計画に☆印をつける。
 - ②城東学園教科領域部会で実践について話し合うことを通して、城東学園としての「深い学び」のイメージを作っていく。
- (3) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台作り～
 - ①一人一人が発言の機会をもつ少人数活動・互いの顔を見て話すT字隊形
 - ②仲間とかかわり合いながら考える思考ツール「まなボード」
- (4) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～
 - ①板書（学習課題：白、学習問題：青、まとめ：赤）
 - ②指導案（4校で統一指導案・「学びの系統性」（小1～中3のつながり）を入れる「深い学び」にするための手立てを指導案の中に明記）



特色ある学力向上への取組

家庭学習

- ・毎週末に家庭学習として日記や作文を書く。書いた日記は、保護者に読んでもらってから提出する。
(振り返りノート)
- ・全校統一の学習カードを使用し、児童が自分で家庭学習や予定の管理をする。
- ・eライブラリーアドバンスの活用。

まなカード (学習言語系統表)

- ・「話す」「聞く」ことについて「種、芽、つぼみ、花」それぞれの段階でつける力を決め指導する。

放課後学習

- ・地域ボランティアによる、児童の学習機会を設定する。
- ・eライブラリーアドバンスの活用。



読書活動

- ・1年間の個人目標を「年間50冊」に設定する。
- ・学年ごとに学校司書が選定した本を学級文庫に置き、読書に親しむ。
- ・必読図書を1年30冊、2～6年20冊に設定し、ローテーションを決めて良書に親しむ。

城東学園一貫教育カリキュラムの内容を精選し、実践を続ける。

外国語活動 新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と外国語における一貫教育カリキュラムの実践をする。

道徳 地域素材(偉人)を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

総合的な学習の時間 身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。



目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標 アクティブ ポジティブ クリエイティブ

掛川市立佐東小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は、城東学園の小中4校で研修主題を『対話を通して考えを深める授業』と統一し、「対話」を中心に研修を行った。具体的には、①コミュニケーション力育成を目指す単元構想、②学びを深める小集団活動、③授業のユニバーサルデザインの3つを授業づくりにおいて手立てを打った。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

- 座席や隊形など、話をするための環境を整え、授業の中で意図的な対話を取り入れたことで、児童が対話することに慣れた。
- 自分の考えに自信をもち、その考えを表現できる児童が増えた。
- ▲自分の意見を友達に伝えることで終わってしまい、考えが深まらなかった。
- ▲考えを広げ深めるための対話スキルが身に付いていない。



研修テーマ

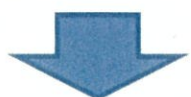
城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」



研修の取組

- (1) コミュニケーション力育成を目指す単元構想～対話活動の質的向上～
 - ア コミュニケーション段階表に基づき、各教科・領域で段階別に目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。
 - イ 考えが深まる『問い』や『場面』を設定する。
 - ウ 『『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業設計診断』（県総合教育センター発行）を活用し、指導計画を立てる。
- (2) 「考えが深まっている子どもの姿」の追究
- (3) 学びを深める小集団活動～子どもが関わってまなんでいく土台づくり～
 - ア 小集団の人数は3～4人を基本とする。
 - イ 隊形をI字型に統一する。
 - ウ 対話時にホワイトボード（愛称：まなボード）を活用する。
- (4) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことができる学習環境の創出～
 - ア 板書方法を統一する。（学習課題：白枠、学習問題：青枠、まとめ：赤枠）
 - イ 指導案の形式を統一する。（9年間の学びの系統性を入れる。「解決したい問い」、「対話と思考」の場について本時の活動に明記する。





特色ある学力向上への取組

落ち着いたある教室環境づくり

- ・教室内の掲示コーナーを統一
- ・学び合いコーナーを設置
- ・すっきりした前面掲示

まなんでいく姿勢を支える

- ・学びじまん月間（4月）で学習ルールを守る意識作り
（学習用具・チャイム席・あいさつ）
- ・佐束っ子チャレンジの実施
詩の音読、計算カード、九九、ローマ字などの学習で、自分で目標を決め、取り組む姿勢を育成
- ・定着度調査の分析と個への支援

読書指導・読書環境の充実

- ・朝活動における読書
- ・家読・親子読書の実施
- ・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ
- ・質の向上を図るための推薦図書を選定
- ・図書館司書の活用

放課後学習・家庭学習

- ・学びっこタイムにおける基礎の定着
- ・保護者による見届け
- ・eライブラリーによる自主学习

外国語・外国語活動の充実

- ・新かけがわスタンダードのCan-Doリストの活用

城東学園小中一貫教育研究

城東学園小中一貫教育研究計画に沿って年間4回の全体研修会を行い、授業実践の成果と課題を共有する。

校内研修では、「思いを語る道徳」にするために、①「授業づくりアイデアシート」を使用した授業構想、②導入の工夫、③問い返しの引き出しを増やす、④振り返りの工夫の手立てについて、研修を深める。

道徳科の研究の成果や課題を、城東学園内の小中学校に情報発信するとともに、他校からの情報を全教職員と共有し、実践していく。



目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標 自分から まなんでいく子

掛川市立中小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

【昨年度の研修の成果】

授業研究後に全学級で共通実践することをその都度確認し、全教員が3教科（外国語活動、生活科・総合的な学習の時間、道徳科）において日常的にコミュニケーション力の育成を目指した授業を実践しようと努めることができた。

子どもたちは自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いたりして、交流や話し合いが自然にできるようになった。

【昨年度の研修の課題】

子どもたちの対話が意見交換にとどまることが多く、対話を通して自分の考えを伝えたり相手の考えを受け容れたりすることで、よりよい考えをもつ「考えを深める」段階までに至っていない。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

(1) 「対話を通して考えを深める」ための手立て

- ①年代別コミュニケーション段階表に基づき、各成長段階における目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。
- ②単元の中で、考えが深まる『問い』や『場面』を設定する。
- ③『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業設計診断を活用し、指導計画を立てる。

(2) 考えが深まっている姿の追究

- ①教科・領域部会で、授業の中で「対話を通して考えを深めた授業」について話し合う。
- ②『主体的・対話的で深い学び』の講話を聴講し、「深い学び」について共通理解を図る。

(3) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～

- ①小集団人数は3～4人を基本とする。
- ②隊形はT字型とする。
- ③対話時にホワイトボード（愛称：まなボード）を活用する。

(4) 授業のユニバーサルデザイン

- ①板書方法を統一する。（学習課題：白枠、学習問題：青枠、まとめ：赤枠）
- ②指導案の形式を統一する。（9年間の学びの系統性を入れる。「深い学び」にするための手立てを明記する。）



特色ある学力向上への取組

読書の充実

【ねらい】

- ①読書活動を通して、言語能力を高め、感性を磨き、想像力を豊かにし、論理的な思考力、コミュニケーション能力等を高める。
- ②読書活動を通して、読書の大切さや楽しさを感じ取る。

【方法】

- ・朝読書の位置づけをする。
- ・お話バイキング（職員による読み聞かせ）を行う。
- ・ペア読み聞かせを行う。（高学年の児童が、ペア学年の下級生に読み聞かせをする。）
- ・おすすめ本を図書委員が紹介する。
- ・ボランティアによる読み聞かせを行う。

中小日記…「書くこと」の指導

【ねらい】

- ①6年間継続して書くことで、基礎学力のもとになる「書く力」を身に付けさせる。
- ②書いたものを紹介し合うことで、自分や友達のよさやがんばりを感じさせる。

【方法】

- ・金曜日の朝の時間に日記を書く。
- ・学年ごと、全員に身につけさせる指導事項を設ける。

家庭学習の充実

【ねらい】

自ら学ぼうとする習慣づけを図る。

【方法】

- ・「学年目標（10分×学年+10分）の学習」を目指す。
- ・学校での学習内容を伝える「お茶の間学び発表会」を行う。
- ・eライブラリの活用を促す。

外国語教育の推進

新かけがわスタンダード Can-Do リストを活用する。

ALT と打ち合わせを確実にして、外国語科・外国語活動を行う。



目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標 自分から学ぶ子 人と学び合う子

掛川市立大坂小学校

令和2年度 我が校ものがたり

【子どもの実態】

- 与えられたこと・決められたことには責任をもって行うまじめさがある。
- 共に学び合う姿がたくさんみられるようになってきた。
- △思いや意見を伝え合いながらみんなでよりよいものをつくらうとするコミュニケーション力が弱い。
- △どの子も自分事として捉えて考え行動しようとする意識が育っていない。



主体的に関わり合って学びを深めていく子

学びの土台づくり

- 1 学びのルールを身につける。
(学びを支える学習用具表)
- 2 話す力、聴く力を高める。
(話す・聴く山ステップ一覧表)
- 3 問題解決力の向上
(学習問題→赤枠 まとめ→青枠)
- 4 家庭学習の習慣をつける。
(eライブラリを活用)

研修の取組

- 1 ねらいを明確にした単元構想
- 2 必然性のある課題や問い
- 3 話題に合った話合いの場を設定
(コミュニケーション力の向上)

学び合いの授業づくり

- ・目指す授業像をつくる
- ・意図的な学習形態の設定
- ・振り返り時間の確保

学習に楽しさを感じる事ができる子

第1ステージ

第2ステージ

第3ステージ

第4ステージ

よい話し方・聞き方がわかる。

- ・学びのルール定着
- ・めざす授業像
- ・相手を見て話す。
- ・最後まで聞き反応。
- ・読書・家庭学習の習慣

相手を意識した話し方・聞き方がわかる。

- ・授業像を個で振り返る。
- ・つなげて話す。
- ・くらべながら聴く。

わかりやすくつなげた話合いに挑戦する。

- ・授業見学
- ・図や例えを使って話す。
- ・図や例えとつなげて聴く。

それぞれの意見をつなげて高め合う。

- ・授業像、話合いを振り返る。
- ・話す山・聴く山の自慢を発表。

家庭学習の習慣

親子読書

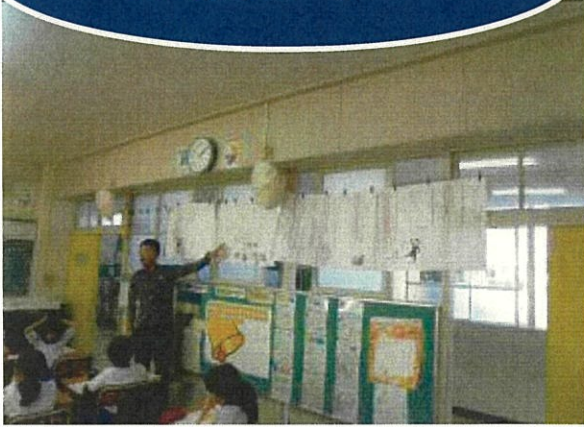
ノーメディアデー

「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

- 子育て5か条
- 学校公開
- 交流連携活動
- 学校運営協議会・大坂小教育を語る会
- 地域素材の教材化

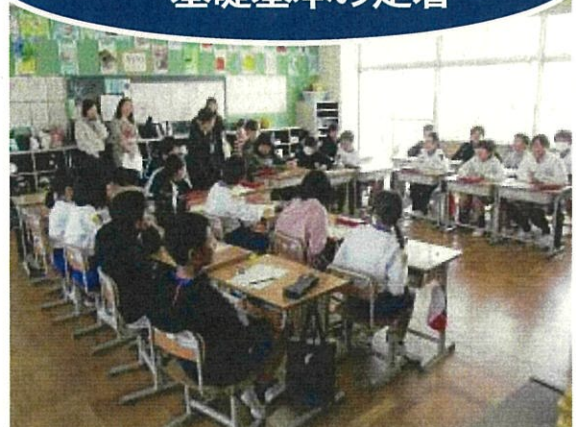
特色ある学力向上への取組

心の鐘コーナー



授業での良い現れは、「心の鐘シート」
に書いて掲示します。

学びに必要な 基礎基本の定着



「学びを支える学習用具」をみんなで確認し、学習
の構えをつくるためのルールを身につけます。

読書活動の推進



おすすめ本20冊を含む読書目標を達成でき
るように目指します。

ICTの活用



いろいろなツールを使い、考えを作ります。

外国語活動



全学年、1年を通して取り組んでいます。

表現力を高めるイベント を企画・運営



ひびきん委員会を中心にクラスや委員会でイ
ベントを計画。主体性を伸ばします。

掛川市立千浜小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

一昨年度から研修主題を「主体的に学び合う子」とし、研修を進めてきた。昨年度はこの研修主題のもと、自ら課題を見つけて対話しながら考えを高め合う子、学んだことを活用できる子の育成を目指して授業改善に取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見えてきた。

- 導入や学習問題の工夫によって展開の場面で子どもたちが意欲的に取り組むようになった。
- 学んだ知識を使って説明しようとする子が増えた。
- 話し方・聞き方を意識できる子が増えた。
- ▲単元を通して個の見取りが不十分だった。
- ▲学び合いに全員が参加できなかった。
- ▲「対話しながら考えを高め合う」まで深めることが難しかった。

研修テーマ

主体的に学び合う子

研修の取組

柱1 学びを深めるための授業構想

①単元構想

- ・他学年の内容も系統的に見て、指導案に入れ込む。
- ・これまでの知識・技能をもとに、単元で付きたい力を明確にする。

②本時の授業構想

- ・前時までの学び・考え方、算数以外の教科での学び、人間関係などから個の実態を把握する。
- ・どんな考え方をするか、だれと関わらせるか考えて授業を組み立てる。
- ・児童の見取りを生かし、本時でどのような算数の見方・考え方をするのか想定しておく。

柱2 意欲的な対話にするための仕掛け

①中心発問、対話の場面での補助発問を工夫する。

- ##### ②具体物の使用・視覚的な支援（ICTの活用等）・ジグソー学習・ホワイトボードの使用等、どんな仕掛けで対話につながる意欲が引き出せるのかを考えていく。必ず児童の実態を把握した上で効果的な仕掛けを考えるようにする。

特色ある学力向上への取組

【学びの土台づくり】

- ・聞き方「あいうえお」
話し方「かきくけこ」の定着
- ・朝の会でスピーチ練習
- ・朝のドリルタイム（毎週金曜日）

千浜小学校 聞き方「あいうえお」

あ あいてをよくみて
い いっしょうけんめい
う うなずきながら
え えがおで
お おわりまできこう

千浜小学校 話し方「かきくけこ」

か かおをみながら
き きもちをこめて
く 口を大きくあけて
け 元気よく
こ 声の大きさにきをつけて

【ユニバーサルデザインを 意識した授業】

- ・1時間の授業の流れが見通せる
ミニホワイトボードの活用
- ・中学校区で統一した板書
(学習問題は赤枠、まとめは青枠)

【家庭との連携】

- ・家庭学習の手引きの配布
- ・週末読書、親子読書の推進
- ・家庭学習時間の意識化
- ・eライブラリの推奨

【外国語教育】

- ・新かけがわスタンダードの活用
- ・ALTとの連携

【読書指導の充実】

- ・朝読書（週3日）
- ・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ（毎週水曜日）
- ・学年に応じた必読書の設定
- ・毎日の家庭での読書の推進
- ・学校図書館を活用した授業の推進
- ・図書便りの発行

【教室環境の整備】

- ・学習コーナー、道徳コーナーの設置
- ・すっきりした前面掲示



目指す姿

「主体的に学び合う子」



自分事として課題を捉えて考えを作り出し、
伝え合う活動を通して学びを深めることができる子

掛川市立横須賀小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態（令和元年度 成果と課題）

- グループ活動において、自分の考えを積極的に伝えようとしたり、友だちの話を一生懸命に理解しようとしたりする姿が多く見られた。中には、困っている友だちに教えている姿も見られた。
- 全体学習の場で、自信がなくて発表の音が小さくなり、友だちに対して考えを伝えられない。
- 全体学習の場で、友だちの発表を最後まで聞けない。
- 全体学習の場で、友だちの発表に対して自然な反応をすることが少ない。



研修テーマ

話し合い活動を通して「できた」「わかった」を共有する授業



研究仮説

子ども一人一人が積極的に自分の考えを伝え、また、友だちの考えを理解しようと耳を傾け、活発な話し合い活動ができれば、学び合いが実現し、学びが深まり、子ども同士で「できた」「わかった」を共有することができるのではないか。



研修内容

- ・夢中で取り組むことのできる課題設定
 - ・自分の考えに自信をもたせる手立て
 - ・問題解決に向けた、聞く話すの指導方法
- ※かけがわ型スキル①②と関連



特色ある学力向上への取組

板書例

<横小授業スタイル10か条>

授業の目標

- 1 学習用具をきちんと用意する。(鉛筆ははずしておく)
- 2 トイレをすませ、授業の始まる時刻を待つて席に着く。

発問

- 1 元気な声の良い姿勢であいさつ。

<聞く>

- 1 話し手の方を向いてまっすぐ。
- 2 姿勢する。

<話す>

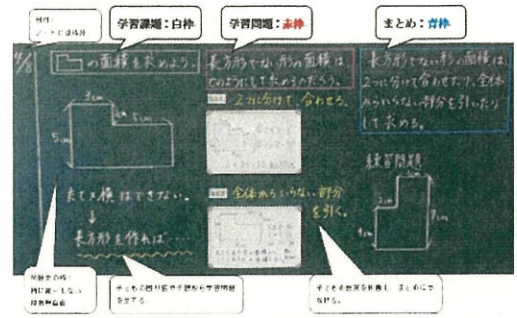
- 1 クラスみんなに聞こえる声で話す。
- 2 聞き手の方を向いて話す。

<書く>

- 1 下じまをしく。
- 2 線を引くときは、定規を使う。

板に書いたこと

- 1 明日の学習用具をそろえ、鉛筆をはずす。



◇職員・子どもの統一事項◇

- ☆学び合いの手引き
- ☆授業スタイル10か条
- ☆板書例
- ☆聞く話すの段階表

◇読書指導◇

- ☆朝活動での開き読み、読書
 - ・図書ボランティアによる開き読み
 - ・読書カードの活用
- ☆学校司書の活用
 - ・読書の時間や授業での本等の紹介

◇ICT機器の活用◇

- ☆ICTを効果的に活用した授業
- ☆調べる、まとめる、伝えることでの活用
- ☆プログラミング教材の積極的な活用

◇家庭学習の習慣化◇

- ☆学年ごとの家庭学習時間の目安の提示
- ☆eライブラリの活用
 - ・ホームページからの簡単アクセス
- ☆学年PTAとの連携

◇外国語活動◇

- ☆英語の掲示物を特別教室などの入り口に掲示
- ☆週1回の学習の時間における外国語活動の補充



目指す子どもの姿とは・・・

- 友だちの考えを理解しながら聞こうとする姿がある。
- 自分の考えを積極的に、友だちに伝えようとする姿がある。
- 友だちの発言に対して、自然で温かい反応をする姿がある。

☆知識・技能

- ☆思考力・判断力・表現力等
- ☆学びに向かう力・人間性等

学力・関わり合う力の定着

掛川市立大淵小学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

令和元年度 研修テーマ「自ら考え 自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業
成果

- ・単元構想を十分練り、発問を吟味したことで、子どもたちの中に「みんなで授業をする」という主体的に学ぶ雰囲気が生まれた。
- ・短時間で印象的に課題を共有できるように工夫したり、一人学びの手立てを充実させたりしたことで、子どもが学習の見通しをもち、自分の力で考えを作るようになってきた。
- ・授業のねらいに迫るための切り返しの発問を準備し、視点をもたせた交流を行うことで、子どもの追求意欲が続くようになってきた。

課題

- ・学習問題を解決させるための深い学び合いまで至らない。
※コミュニケーション・対話のための語彙力、発信力を伸ばす。
※誰とでも関わって学ぼうとする探究心、学級風土を高める。

令和2年度研修テーマ

「自ら考え 進んで自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業

研修の取組

- (1) 主体的な学びを生み出す単元構想
 - ア 単元でつきたい力の明確化
 - イ 子どもの思考の流れに沿った単元構想の作成
 - ウ 発達段階に応じた「つきたい力」の明確化
(6年間の系統的指導、横断的な学習)
- (2) 授業後半の学びを深める展開(仕掛け)
 - ア 学びを深める発問(深化・統合・発展)
 - イ 効果的な交流(タイミング・視点・形態)

- ◎新学習指導要領全面实施。
- ◎教師の指導力向上を図る。

【窓口教科】 国語科
【中心授業研】 低・中・高
特別支援学級
【2回の講師を招いた研修】
常葉大学大学院
中村 孝一 研究科長

特色ある学力向上への取組

めざす授業像の共有

学級で学び合う姿を話し合い、自分の目標を立てる。掲示して定期的に振り返ることで成長を確かめていく。

また、段階を追いながら話し方・聴き方のレベルアップを図っていく。

はなしかためいじん
うなずきながら
やさしくお話を
きかせる
はなしかためいじん
うなずきながら
やさしくお話を
きかせる
はなしかためいじん
うなずきながら
やさしくお話を
きかせる

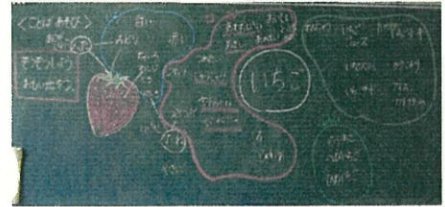
基礎学力を伸ばす朝活動

ア 読書・読み聞かせ（月・火・木）

- ・自分の目標を立てて読書をする。
- ・図書館デー、大淵小の30冊の活用。

イ ことばあそび（金）

- ・詩の音読や五感を使って豊かに表現する活動を行い、語彙力や表現力を育てる。



授業を見合う週間（10月下旬～11月上旬）

1学年上の授業を参観したり、1学年下の子どもたちに参観されたりすることを通して、目指す授業像に向かう姿を振り返り、より良い学びをしようとする意識を高める。

外国語教育の推進

新かけがわスタンダード Can-Doリストを活用する。

ALTと打ち合わせを確実にして、子ども達に楽しく分かりやすい外国語の授業を行う。

家庭学習（学年×10+10）分

音読、漢字、計算、読書を基本として取り組み、本読みカードを活用しながら、家庭と連携して指導していく。

高学年は、自主学习に計画的に取り組み、自分から学ぶ姿勢を育てる。

全児童には、eライブラリーの活用法を知らせ、自主的な取り組みを奨励していく。

マスターテスト（学期末）

漢字の読み書きと算数全般の理解の確認と定着を図る。

目指す姿

重点目標「自分から一歩ふみ出そう みんなでやりぬこう」の具現化された姿として

- ★自分で考え、行動する。（自分の言葉で伝える。）
 - *気づき、考える力を伸ばす。
 - *勇気を出して、自分から一歩ふみ出す。
- ★目標に向かってやりぬく。

自分に対するやさしいパワー

- ★目標に向かって、みんなでやりぬく。
 - *よさや成長を認め合い、励まし合う。
 - *誰とでも関わる。

みんなで作るやさしいパワー

中学校

掛川市立栄川中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 学習問題（深く追究させたい問い）を設定し、一人でじっくり考える時間を確保することで主体的に思考を深める姿が増えた。
- 小集団活動で友達の話の聴いたり、わかりやすく伝えようとしていたりすることができている。
- 小集団活動で、自分の考えと友達のを比べ、お互いに深め合おうとする姿勢がある。
- ▲一人で考える際、粘り強く思考を深めたり、あきらめずに挑戦したりすることが苦手な生徒がいる。
- ▲小集団活動が双方向でなく一方的になってしまい、対話になっていない場合がある。

研修テーマ

「進んでかかわり 学び合う生徒」の育成

学びのUDと学び合いによる「主体的・対話的で深い学び」の実現

研修の取組

栄川中学校区一貫研の研修テーマ「進んでかかわり学び合う子」を受けて、本年度の研修テーマを「進んでかかわり学び合う生徒」と設定した。

サブテーマとして、栄川中の授業づくりの基盤となる「学びのUD」と「学び合い」を入れた。

これらは、一貫研で実践していく「課題設定の工夫」と「交流の意図や目的の明確化」につながる。これらを共通実践することで「主体的・対話的で深い学び」の捉えを模索し、授業改善を行っていく。

昨年度までの研究で「学び合い」の形態を確立させるとともに、小集団活動の質的な向上を目指し研修を進めてきた。

本年度は、新学習指導要領の全面実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものかを研究していきたい。



学力向上への特色ある取組

<英語活動>

- ・毎週火曜日 8:00~8:15
- ・前期3年生、後期2年生

リスニングや単語ゲーム等を通して、スキルアップを図っている。英語でのコミュニケーション力が身に付く。



<読解力向上学習>

- ・毎週金曜日 8:00~8:10
- ・①新聞記事を読む。②内容理解を深めるための問いを数問解く③理解した内容について友達と数分間ディスカッションする。

文章読解力を向上させるための活動である。毎週継続して行うことで、記事を読み取る力や理解したことの要点をまとめる力、また、それらをわかりやすく伝える力が育っていく。テストで問題を読み取る力にもつながる。



<eライブラリー>

各教科の予習や復習に活用している。特に、3年生については、入試対策として入試の過去問題に取り組んだ。

個に合わせた問題を選択することができ効果的であった。

目指す姿



一貫研共通

- 自分の考えをもち、わかりやすく表現する姿
- 考えを比べながら聴き、学びを深める姿



掛川市立東中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- 明るいあいさつ、正しい服装・美しい身だしなみが身についており、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 全国学力学習状況調査（国語・数学）が引き続き全国平均を上回った。
- 授業において、みんなが参加できる雰囲気、みんなが聞いてくれるから説明しようという雰囲気がある。
- もっと「わからないこと」を主体的に追究しようとする態度を育てたい。
- 教科や領域のつながりを意識し、広い視野に立って考えられる力を育てたい。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 交通ルールとマナーの向上に、より一層努力をさせたい。



研修テーマ

仲間との学び合いを通して、全員が「わかった」「できた」と感じる授業づくり

研修の取組

すべての教育活動において「学び合い」を基本として取り組んでいます。平成26年度から、コの字型座席配置、小集団学習を全学級で実施し、学び合いルールの周知徹底を図ることで、教師と生徒による1人も見捨てない学校、学級、授業づくりに努めてきました。ただし、こうした取組も、授業においては、単元を通して付きたい力が明確になっていなければ、また、付きたい力に迫る適切な手立てが講じられていなければ、効果が得られません。そこで、授業づくりの基本となる「押さえる、仕掛ける、確かめる」という視点を全教員で共通理解し、まとめの時間を十分に確保することも徹底しました。

さらに、令和2年度は、昨年度に引き続き、「かけがわ型スキル」の1つである「コミュニケーション力」育成のため、受容的に聞くスキルトレーニングを毎週金曜日の朝に全学級で行います。この活動は、隣同士のペアで、1つの話題について話したり聞いたりする活動です。まず、話し手が1分間で話題について話します。聞き手は傾聴したのち、1分以内で聞き取った内容をそのまま話し手に返したり、感想を付け加えたり、話の内容に質問したりします。話し手は、聞き手が受容的な姿勢を見せることで、「伝わった」「わかってもらえた」あるいは「認めてもらえた」という実感をもつことができます。



特色ある学力向上への取組

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 外国語教育におけるICTの活用（話すことのパフォーマンスをタブレットで録画し相互評価）
- 家庭学習サポートのためのeライブラリの活用

仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しがしやすい」「顔を見て話せる」「気持ちが届く」
「みんなで協力して授業ができる」等、
仲間と力を合わせてつくり上げる授業をめざしています。



学
び
合
い

やる気の共有
思いの共有

お互いの顔が見え、教室が明るく安心して学べる場になっています。

学力のある授業が、いっぱい、
新しい授業も力を合わせれば
きっとできる。
考えたいことを
自由に伝えよう

学習活動別学習効果

聞いたとき	10%	😊
見たとき	15%	😊😊
聞いて見たとき	20%	😊😊😊
話し合ったとき	40%	😊😊😊😊
体験したとき	80%	😊😊😊😊😊😊
考えたとき	90%	😊😊😊😊😊😊😊😊

総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川」をテーマとして、地域や学校を知る、その上で地域や学校に關わる諸問題について考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生 「防災を通して掛川を知る」

2年生 「掛川で働く」

3年生 「掛川を考える」

掛川学

自分だけでなく、いざという時に役立つスキルを身に付け、卒業生として地域のために貢献できるのが考えました。

さまざまな職業で活躍の場を体験しました。

災害時「助けられる人」から「助けようとする人」になるための訓練方法を教団員の活用方法などを学びました。

「働くことの意味」について、実際の仕事の内容も含めてご講義をいただきました。これからの自分も考えられる大きな機会となりました。

これからの生活についてテーマごとご講話もいただきました。

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。



目指す姿

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」
平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌い宣言します。
- 地域と共にある学校
中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人ひとりを育てます。
- 学び合う力の育成
グローバル社会を生き抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。

校歌

一 東海ひびく 山脈めぐりて 平和と自主こそ 進めよ 我が友 こそれり この丘

二 葛の葉しげれる 輝く穂の波 天地の創造 届けよ 我が友 こそれり この丘

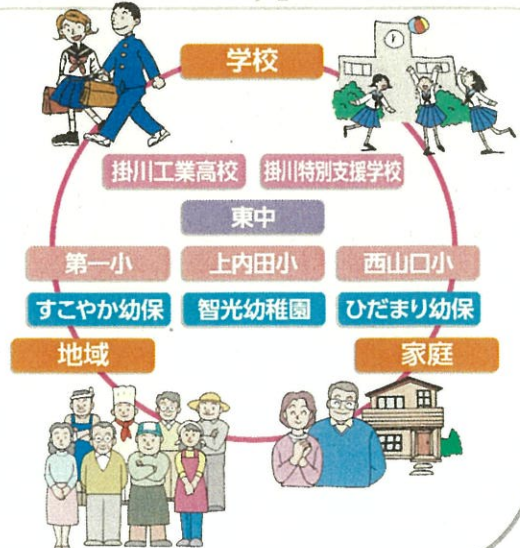
三 天主の台下に 校旗は薫れり 愛なり 修めよ こそれり この丘

（昭和二十八年三月制定）
作詞 澤野純
作曲 奥村洋夫

真白き富士ヶ嶺
地乎に到れり
嶺がぬ誓いぞ
さかしき道をも
桔梗は匂えり

沃野のひろがり
あふるる茶の香と
この身にうけたり
文化は育てむ
桔梗は匂えり

春秋流れて
誇りの歴史に
教えは尊し
栄あれ学び舎
桔梗は匂えり



掛川市立西中学校

令和2年度 我が校のものがたり

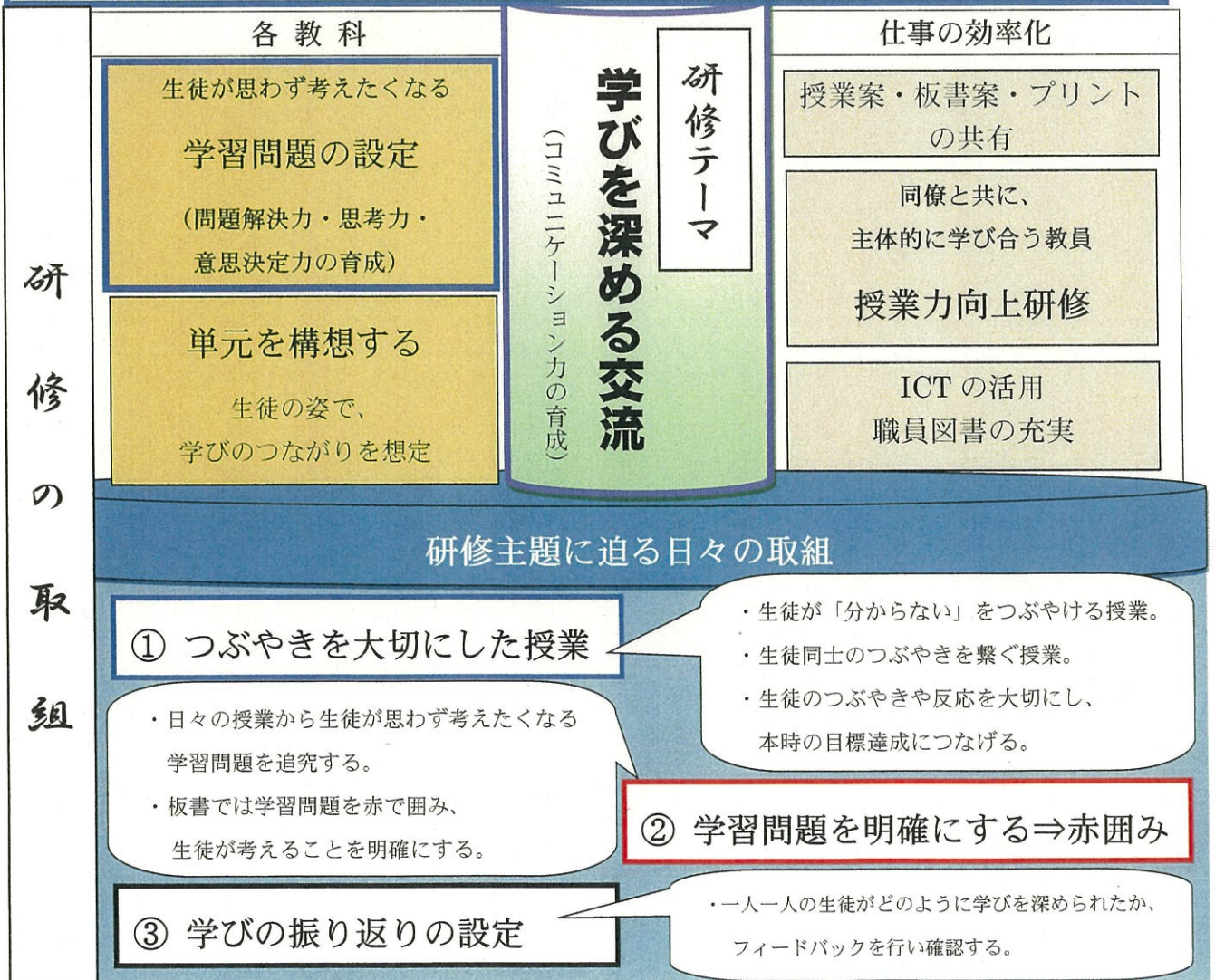
- 明るく素直、まじめである
- 指示されたことはまじめに取り組む
- やり方が分かったことには進んで取り組む
- 集会への集合・聞く態度が素晴らしい
- 挨拶・清掃態度は模範的
- 行事や部活動への取組は前向き
- 小集団で追究の姿が見られる

子どもの実態

- ▲自信をもって自分の考えを发表或し、進んで行動したりすることが不得手
- ▲苦しいことや厳しい状況に立ち向かうたくましさ欠ける
- ▲人間関係づくりや対人コミュニケーションに欠ける生徒が見られる

子どもが主役の授業

〈研修部で目指す生徒像〉 **仲間と共に、主体的に学び合う生徒**



特色ある学力向上への取組

子どもが主役の授業への転換

- ① 学びが深まる交流活動の設定
- ② 生徒が思わず考えたくなる学習問題
- ③ 効果の上がる家庭学習の工夫
- ④ ICT を取り入れた授業
- ⑤ e ライブラリを利用した家庭学習
- ⑥ IBA を活用した英語力向上
- ⑦ 技術・家庭科における Pepper を利用したプログラミング学習



読書環境の充実

- ① 朝読書の実施
- ② ボランティアによる読み聞かせ
- ③ 図書館での朝読書
- ④ 図書委員会企画の読書啓発活動

目指す姿

子どもが主役として輝く学校

- ・ 仲間と共に、主体的に学び合う生徒 <学習・研修>
- ・ 仲間と協力し、失敗を恐れずにチャレンジする生徒 <特別活動>
- ・ 自分たちで状況を考えて、適切な判断ができる生徒 <生活>

掛西学園の連携

- ① 「話す・聞く」ルールの徹底
(相手の方を向いて、自分の考えや思いを伝えたり、最後まで聞いたりすることができる。)
- ② 家庭の共通実践項目を設置
(基本的な生活習慣の向上、
“育ち合い” が合い言葉)
・ 「早寝早起き」を実践しよう
・ 朝ご飯を食べよう
- ③ 教師の共通実践項目を設置し取り組む
(学習の流れがわかりやすい板書、生徒の発言を大切にしながら聞く、授業の中でどんどん褒める。)

地域に根ざした学校として

- ① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動 (読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会)
- ② 近隣高校・小学校・幼保園との公開授業(主活動) による指導方法向上の連携



掛川市立桜が丘中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 真面目な生徒が多く、授業態度は良好である。
- 指示されたことに対して素直に取り組む。
- 仲間と一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
- ▲やや粘り強さに欠け、難しい問題や困難な課題に対して諦めてしまうことがある。
- ▲生み出された次の課題や、上位の目標を目指して、自ら進んで学習に取り組もうとする自主性にやや課題がある。



研修テーマ

生徒が学びに向かう発問の工夫



研修の取組

【研究テーマの目標達成のための3つの視点】

ア 本時（単元）のゴールに向かう発問の設定

- (1) 目標に向かう問いを仕掛ける
- (2) (1)のために、生徒の実態をつかみ、付きたい力を定め、計画していく
- (3) 何をやれば良いのか焦点化されている
- (4) 各教科の見方・考え方をはたらかせて追究できる

イ 考えたくなる発問の設定

- (1) 学習者にとって身近な事柄と関連づけて興味を引く
- (2) 前時の内容と本時の問いがつながっていたり、前時で学んだことを利用できたりする
- (3) 一見解けそうだが、様々な知識技能の活用を要する

ウ 活発な対話を生む発問の設定

- (1) 他の意見を聞いたり、協力したりして解決する
- (2) ゴールの達成のために様々な視点からアプローチできる
- (3) 対話によって新たな価値観が生まれる

→ 3つの視点から授業改善に取り組み、

重点目標『大志を抱く生徒 共生できる生徒 挑戦する生徒』の育成を目指す



特色ある学力向上への取組

○ 授業改善の視点（静岡県教育委員会）

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う⇒「押さえる」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける⇒「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する⇒「確かめる」

○ かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示
- ・外国語学習にたくましく取り組む姿勢を育成するために表現活動を中心とした知識活用の場面を多く設定

○ 教科指導

基礎基本の定着と学ぶ意欲と追究する力の育成

(1) 授業五原則の徹底

- ① 開始時刻を守ろう
- ② きちんとあいさつしよう
- ③ 進んで表現しよう
- ④ 人の話を集中して聴こう
- ⑤ 忘れ物をなくそう

(2) 基礎学力の定着（学力向上プラン）

【最低学習時間の目安】 (桜が丘中校区学園化構想)	1年生	2年生	3年生
	90分	120分	150分

- ・家庭と学級担任と教科担当とが連携して取り組む基礎学力の定着指導
 - ・eライブラリを活用した基礎学力向上のための家庭学習の充実（eライブラリアドバンス）
- (3) 定期学力定着度調査の実施

○ NIE（Newspaper in Education）教育 NIE：学校等で新聞を教材として活用すること

NIE実践指定校として、教科の授業や朝活動に新聞を導入することで、「情報を正しく読み、選択する力の育成」を目指す。

○ 目指す授業 (校内研修)

【3つの視点】

- ア) ゴールに向かう発問
 - イ) 考えたくなる発問
 - ウ) 活発な対話を生む発問
- 主体的・対話的で深い学びを生むきっかけ

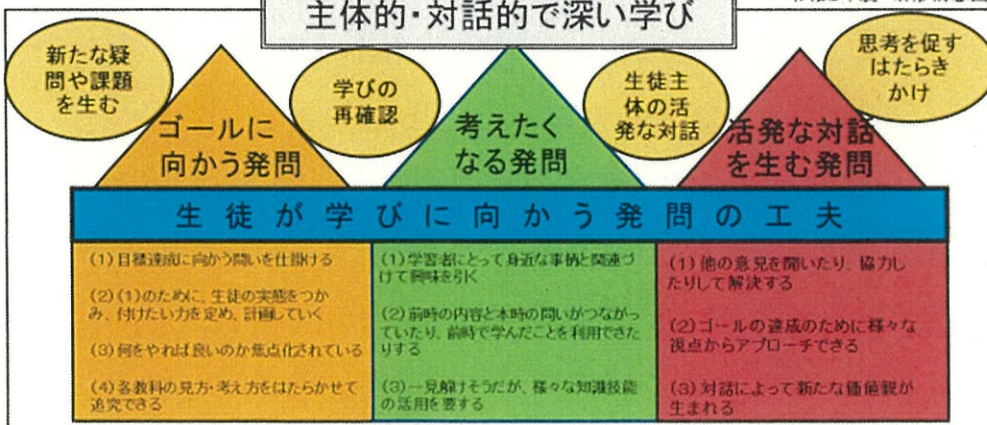
大志：自ら取り組み、考え、判断できる生徒

共生：他者の考えを認め、支え合う生徒

挑戦：我慢強く最後までやり遂げる生徒

主体的・対話的で深い学び

令和2年度 研修構想図



目指す姿

- 大志を抱く（自分から取り組み、自分で考え、判断できる）生徒
- 共生できる（他者の考えを認め、支え合う）生徒
- 挑戦する（我慢強く最後までやり遂げ、言動に責任をもてる）生徒

掛川市立原野谷中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 純朴な心で、落ち着いた生活を送ることができる。
- 小規模集団ならではの生徒相互の気心が通じているというよさがあり、諸活動に熱心に取り組むことができる。
- まじめな態度で授業に取り組む。
- ▲校外に出たときに主体的に行動できる力を伸ばしたい。
- ▲根拠を明確にして相手にわかりやすく考えを伝える力が乏しい。
- ▲社会性に乏しく、競争によって培われるたくましさ欠ける。



研修テーマ

他者の考えを理解した上で、自分の考えを
分かりやすく伝えることができる生徒の育成

研修の取組

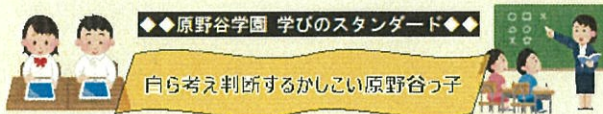
原野谷中の授業作り

授業改善	主体的・対話的で 深い学びの授業作り	研究授業
令和3年度新学習指導要領実施に向けて、「導入（5分で学習の見通し）」「追究（対話を通して主体的な活動）」「まとめ（評価をし、次時につなげる）」をより明確にした授業計画や授業展開を作成する。	かけがわ型スキルの「思考力」「問題解決力」を育成するために、「対話と思考」を通して「生徒が解決したい問い」を設定し、「考えるための材料」を用意する。	職員を複数の研究グループに分け、相互で授業公開を行い、授業改善を行う。 小学校と授業や教員の交流を行い、小中一貫教育を意識した教育活動を行う。

特色ある学力向上への取組

原野谷学園としての小中一貫教育

昨年度までの市指定研究で行った、小中一貫教育を実践することで、長期的な計画で生徒の学力を伸ばす。



【目的】
 ・小学校と中学校が一貫した指導をすることにより、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力をより効果的に育む。
 ・中学校進学時の学習に対する子どもの不安を軽減させる。

【学習の概観】

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生(中1)	8年生(中2)	9年生(中3)
学習の準備	授業が終わったら次の学習の準備をして、休憩・移動								
座席	授業に関合うように着席						1分間着席		
姿勢	頭をを立て、背筋を伸ばした姿勢で座る。								
返事	名前を呼ばれたら、「はい」と返事をする。								
筆箱の中身	○鉛筆5～6本 ○消しゴム1個 ○定規1本 ○赤・青鉛筆1本(6年生は赤・青ボールペンも可)						【基本的な中身】 ○シャープペン1～2本(鉛筆) ○消しゴム1個 ○定規1本 ○赤・青の鉛筆 or ボールペン ○黒サインペン1本 ○蛍光ペン1～2本		
ノート	学習問題は赤、まとめは青で囲む。 線は定規を使って引く。下敷きを入れる。						教科の特性に応じ、自分で工夫し、分りやすく取る。		

【話し方・聴き方】

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生(中1)	8年生(中2)	9年生(中3)
話し方	○みんなの方を見て話す。 ○友達の考えにつなげて話す。 ○具体例を示しながら話す。 ○友達の反応を確かめながら話す。						根拠を明確にした上で話す。		
聴き方	○相手の目を見て聴く。 ○最後まで聴く。 ○反応しながら聴く。 ○相手の思いをくみ取りながら聴く。						自分の考えを断らまされるように他者の考えを聴く。		

【家庭学習】

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生(中1)	8年生(中2)	9年生(中3)
学習時間	20分	30分	40分	50分	60分	70分	80分	90分	100分
内容	本読み 計算ドリル(計算プリント) ひらがな・漢字の書き取り						漢字1P 数学1P(ワーク) 英語(予習 or 復習 or ワーク)		
読書	興味・関心に応じて、10分読書に親しむ。						興味・関心に応じて、10分以上読書に親しむ。		

中学校教員が毎週小学校担任と授業

本校英語科教員と数学科教員が小学校6年担任とともに、それぞれ英語と算数の授業を行い、小学校には専門的な学習の機会を、中学校は児童のようすを把握し、スムーズに中学校へ迎えらるるようにする。



中学校教員による小学校の英語授業
(昨年度のようす)

学校とつながりを持てるeライブラリの活用

eライブラリの「先生からの連絡」を定期的に発信することで、生徒が進んで家庭学習に取り組めるようにする。

地域の人材に協力してもらい数学塾を開催

地域の方に協良くしていただき、数学の基礎学力を身に付けたい生徒に個別指導を行う。

目指す姿

学校教育目標 「夢・汗・感動」

「かしこい原野谷っ子」・・・自ら考え判断する生徒

「りりしい原野谷っ子」・・・心ゆたかな生徒

「たくましい原野谷っ子」・・・ねばり強く取り組むたくましい生徒

掛川市立北中学校

令和2年度 我が校のものがたり



School Identity 「冀北精神」

大先輩達のように、目標に向かって自分を高めよう
北中生として誇りをもって生活しよう

生徒の実態

- 純粋な人間性をもち合わせている
- 明るい対応や笑顔の受け答えができる
- 学習に対する意識が全体的に高い
- ◇一步踏み出すエネルギーに欠ける
- ◇レールの上は走れるが新たな道を築けない
- ◇壁に当たった時の自己回避能力に欠ける

冀北の目指す生徒の姿

- 挑戦をいとわない生徒
- 新たなレールを自ら切り拓いていける生徒
- 失敗を恐れない生徒
- 現状を打破していこうとする生徒
- 自ら負担をかけている生徒
- 自身でふさわしい行いをしていく生徒

学校教育目標

確かな学力 豊かな心 高いところざし

校内研修テーマ

共によりよく生きようとする子の育成

～他者と関わり、自己を見つめ直す授業を通して～

①「考え、議論する道徳」にするための指導方法の工夫

答えが一つではない道徳的な課題に対して、他者と対話したり協働したりしながら多面的・多角的に考え、主体的で対話的で深い学びの視点から道徳の授業を実践していく。そのために、発問構成や展開方法の工夫、道徳的価値理解を深める工夫などを追究し、指導方法の改善をしていく。

②一人一人の良さを伸ばし成長を促す評価方法

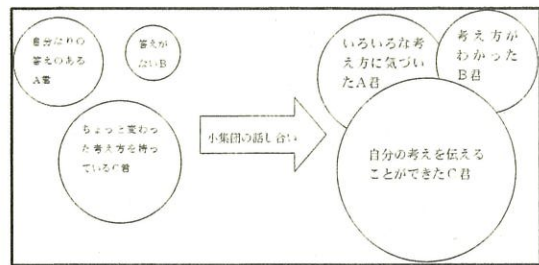
「一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展させているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」の2つの視点で生徒の取組を評価していく。思考の変容がわかるワークシートや板書づくりに取り組み、道徳アンケートや振り返りシートなどを利用し、継続的に見取っていく。

また、各教科や特別活動などでも道徳教育を実践していく。つまり、「別葉」の実践である。道徳的価値について様々な教科から捉え直すことにより、自己を見つめ直すきっかけにもなり、ときには道徳の授業だけでは深めることのできない要素もある。道徳科の授業が軸(幹)であれば、各教科は輪(枝葉)である。複数の方向から道徳的価値に焦点を当て、生徒により深い思考を生み出していきたい。

特色ある学力向上への取組

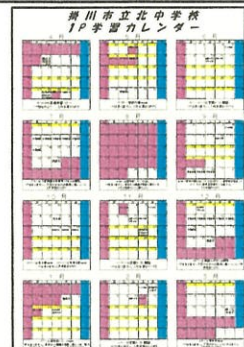
共同的な学びのある授業

- ①生徒が考えたいくなるような発問づくり
生徒から学習問題を引き出す投げかけや教材の工夫。
- ②小集団学習を深める手立て
教師による問い返しや小集団の学びをつなげる工夫。
- ③確かな学力づくり
プレテストの実施、IBA を活用した英語学習。



家庭と連携した家庭学習支援

- ①「eライブラリ」の活用
家庭で授業の復習や問題練習。課題の配布、学習状況の点検を行う。
- ②家庭学習の計画的な指導
家庭と学校が連携して指導できる家庭学習表を活用し、見通しをもたせる。



ICT 機器の活用

- ①各教科専用の Surface、各学年専用 AppleTV の配備
全ての教科(道徳含む)で ICT 機器を活用できる。
- ②各教科での効果的な活用
導入での教材提示。発表や実演の様子を撮影し、振り返る。
- ③技術家庭科における Pepper を利用したプログラミング学習

生徒用サーフェス…40台

【保管場所】第1パソコン室
【管理方法】タイム予約表

【特徴】
・たくさんあるあ、1学年5クラス同時でも1クラス8台は使える
・自動ではないが、デスクトップ右下のアイコンに繋がる。
・物理キーボードが付いている。またカメラ機能
・第1パソコン室で使用する場合、教員権から word や Excel、PowerPoint などが使える。
・(重要) 毎月初期化されるので本体に microHDMI 変換を使えば有線でも画面に接続できる。



ipad…18台

【保管場所】職員室別パソコン室
【管理方法】管理記録簿

【特徴】
・apple TV を使えば、無線で画面に映せる。
・HDMI 変換器を使えば有線でも画面に接続できる。
・サーフェスより軽い
・Windows より直感的に使える。
・カメラを用いた写真や動画の撮影、管理がサーフェスよりも容易(デジカメの代替になる)
・ipad 同士の画像や動画の移動が楽。
・教室に持って行くとネットに自動で接続できる。



道徳の授業改善

- ①学年授業案検討会の実施
ねらいの共有し、学年共通の中心発問を作成する。
- ②道徳授業の指導方法の工夫
思考ツールを利用。ペアや小集団などの学習形態を活用。
- ③全学年共通の振り返りシート
「北中振り返りシート」を作成し、考えの変容を見取る。
- ④外部講師を招聘
静岡大学の藤井基貴教授から助言を受け、議論を深める方法や道徳の評価方法について校内研修で追究する。
- ⑤道徳科から各教科へ
「考え、議論する道徳」⇔「主体的、対話的で深い学び」



掛川市立城東中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度から、城東学園の小中4校で研修主題を「対話を通して考えを深める授業」に統一し、共通の手立てをもって授業研究を進め、「対話」を中心に研修を行った。その結果、次のような実態が明らかになった。

○小集団活動の形が定着し、生徒は自分の考えをもち、学習班の中で意見を言おうとしていた。

○一人では達成できなかった課題に対して、対話を通して解決していく姿が多く見られた。

▲友達の意見を聞くことはできるが、それに対して意見をしたり、自分の考えを高めたりすることが難しかった。

▲語彙力や表現力が足りず、伝えたいことが伝わらず、もどかしく思っている様子が見られた。

▲教職員の中で『深い学び』のイメージが共有されていないことが課題となった。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育研修テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

(1) 「深い学び」の研修

単元構想作りを通して、「対話を通して考えを深める授業」について考える。最後に『各教科の「深い学び」』についてのレポートを作成し、研修のまとめとする。

(2) 「対話を通して考えを深める」ための単元構想づくり

① 年代別コミュニケーション段階表に基づき、各成長段階における目指す子どもの姿をイメージして、単元構想を練る。

② 単元の中で、考えが深まる『問い』や『場面』を設定する。ただ話しているだけでなく、内容に深まりが見られ、生徒がより良い考えをもつようになる問いや対話の場面を設定する。

(3) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～

① 人数は3～4人 ② 隊形はT字 ③ ホワイトボード（愛称：まなボード）の活用

(4) ICTの活用 タブレット機能を用いてまとめをしたり、表現をしたりする。

(5) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～

① 板書（学習課題：白囲み 学習問題：青囲み まとめ：赤囲み）

② 指導案（・4校で統一した授業案・「学びの系統性」〈小1～中3のつながり〉を入れる）
・「考えを深める」ための手立てについて授業案に明記する。



特色ある学力向上への取組

学習環境づくり～学習の4原則～

授業における「学習の4原則」として、「タイム着席」「あいさつ」「主体的な取組」「課題や学習用具準備」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

思いっきり学習会

基礎学力の定着を図るため、校内テストの前に思いっきり学習会を実施する。テスト勉強への意欲化を図ると共に、勉強の方法がわからない生徒が勉強に前向きに取り組めるようにする。



外国語教育

新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムを実践する。小中学校間のなめらかな接続と適度な段差を設定することを意識し、小学校での学習内容を発展的に生かすようにする。

道徳

一貫教育カリキュラムに基づき、「考え議論する道徳」の授業を実践する。地域素材（偉人）を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

総合的な学習の時間

一貫教育カリキュラムに基づき、「コミュニケーション力」を意識しながら、課題解決学習を行う。身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。



家庭学習

「eライブラリ家庭学習サービス」を導入しICTを活用して、家庭学習への生徒の主体的な取組を奨励する。学級担任は教科担任や保護者と連携を取り合い、多方面から家庭学習をサポートする。



目指す姿

学校教育目標	城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども
重点目標	進んで挑戦する生徒 仲間と共に高めあう生徒

掛川市立大浜中学校

令和2年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・ 仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。
- ・ 付きたい力が付いたことを実感できていない可能性がある。
その授業で付きたい力が付いたかどうかを生徒が実感できているかどうか。



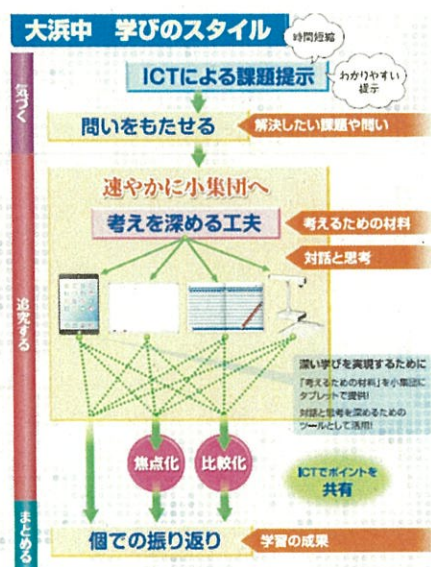
研修テーマ

主体的・対話的で深い学びの実現
～力が付いたことが実感できる授業をデザインする～



研修の取組

- 1 付きたい力を付けるための授業デザイン
 - (1) 解決したい課題や問いの設定
 - (2) 深め、広げる学び合いの時間の確保
 - ① 学習形態の工夫（コの字型座席）
 - ② 考えるための材料
 - ③ わからなさを大切にする教師の見取り
 - (3) 付いた力を実感する振り返りの充実
- 2 ICTの効果的な活用
 - (1) 学びのUDとしての活用
 - ① わかりやすさ
 - ② 時間短縮
 - (2) 深め広げるためのツールとしての活用
- 3 中心授業研究の工夫
 - (1) 学習科学の考え方を生かした授業研究会の実施
 - (2) 学習過程可視化法を用いて付きたい力を発揮する姿が現れているかどうかを学びの姿から判断する。



特色ある学力向上への取組

- ①外部人材の活用による研修の活性化
- ・聖心女子大学の益川弘如教授と静岡大学の河崎美保准教授から助言を受け、「深い学び」に焦点を当てた校内研修を推進する。

- ②データに基づく授業診断
- ・授業改善によって生徒の学力が向上したかどうかを検証するために、授業評価アンケートや全国学力学習状況調査、標準学力検査を用いて総合的に分析を行う。

- ③対話を基軸にした授業づくり
- ・コの字型座席、小集団を基本とし、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」という4つの観点から、授業づくりを行う。
 - ・生徒のわからなさや疑問を引き出し、そこからさらに学びを深める。

- ④対話を基軸にした学校づくり
- ・総合的な学習の時間の取組（防災教育やキャリア教育）、特別活動における仲間づくりや自尊感情を高める支援など、すべての教育活動において「対話」「協働」「学びあい」を実践する。

- ⑤家庭学習におけるICTの活用
- ・インターネットによる家庭学習サービス「eライブラリ」を使って、生徒が家庭で、復習や予想問題に取り組む。

- ⑥IBAおよび掛川スタンダードの活用
- ・中2で実施するIBAにより実態を把握するとともに、小学校の外国語教育との連携を図りながら授業改善に努める。



目指す姿

- ・授業で付いた力を実感することで「もっと学びたい」「もっとできるようになりたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
- ・仲間の考えや表現、わからなさや疑問に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えを更によりよいものにしようとする生徒。

掛川市立大須賀中学校

令和2年度 我が校のものがたり

生徒の実態

- ・問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
- ・小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
- ・生徒の地域行事への参加率が大変高く、地域とのつながりが強い。
- ・学びを深めようとしたり、深く物事を考えようとしたりする習慣の定着が弱い生徒が多い。
- ・基礎学力や家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。

令和元年度の研修の成果と課題

- 【成果】・おおすか型授業スタイル（導入の工夫、学びの工夫）の確立を目指しICTの活用や小集団活動を取り入れ、『学び合い』による生徒同士の関わり合いを増やしたことにより、生徒が追究したい課題に対して取り組む時間の確保ができた。
- 【課題】・授業だけではなく、教育課程として様々な場面での『学び合い』の設定を行っていく必要があること。生徒のコミュニケーション能力の基礎が必要である。

研修テーマ

生徒一人一人の学びを保障する『学び合い』の実現を目指して

研修の取組

- ☆「学びを保障」とは具体的に何か。→ 授業への全員参加
- ☆「『学び合い』の実現」とは具体的に何か。
 - 最終的に実現したいのは「主体的・対話的で深い学び」。
 - 付けたい力は「コミュニケーション力」「教えて、と言える力」「深く学ぶ力」。

《 学びの成立のために 》

＊活動的で、協同的で、表現的な学び

＊「学びの成立条件」＝「真性の学び」＋「聴き合う関係」＋「ジャンプの課題」

- ・真性の学び ＝ 「話し合い主義（課題の本質を見失った会話）」を克服した学び
- ・聴き合う関係 ＝ 生徒同士だけでなく、教師と生徒も聴き合う。
- ・「共有の課題（教科書レベル）」＋「ジャンプの課題（教科書以上）」
- ・教師の役割は「聴く・つなぐ・返す」

→授業を「プラン」ではなく、「デザイン」していく。

※プラン…授業前に決定。デザイン…授業課程においても授業を構成

～特色ある学力向上への取組～

☆おおすか型授業スタイルの確立

生徒が資質・能力を発揮しながら主体的に学ぶことのできる授業づくりを進める。

- ① ICT機器の活用で導入と学びの工夫をする。
 - ・導入に機器を用いることで時間を短縮する。
 - ・意見の共有や交換を行いやすい。(コミュニケーションツールとしての活用)
 - ・考えの変容を見取りやすい。 ・情報の選択・活用力の向上を図る。
→ 同時に環境整備や活用法の紹介、授業実践などをOJT研修として扱う。
- ②小集団活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。
- ③生徒の主体的な学びによって授業が展開される単元構成を考える。
- ④基礎学力向上のための家庭学習の充実を図る(予習、復習、e-ライブラリの活用)。



☆朝学習・コミュニケーション活動・NE活動 (Newspaper in Education)

- ①学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、年間25回の朝学習を行う。
- ②資質・能力を発揮させるために必要な対人関係スキル(聴く、話す)の基礎技術を身につけさせる。週に一度、朝の会前に行う。
- ③年間25回、記事を読み感想を書く活動を行う。生徒の読解力の育成と書く力の向上を目指す。



☆外国語教育における読解力育成に向けた取組

IBAにおける読解力への課題に対し、新かけがわスタンダードCAN-DOリスト「読むこと」を活用しながら、教科書以外の読み物教材の開発と自分の考えを伝え合う言語活動に取り組む。

☆ジャンプの課題設定

「共有の課題(教科書レベル)」+「ジャンプの課題(教科書以上)」を設定し、教師はファシリテーターとしての役割を担う。

目指す子どもの姿

追究したい問いに対し、主体的に深く学ぶことができる生徒